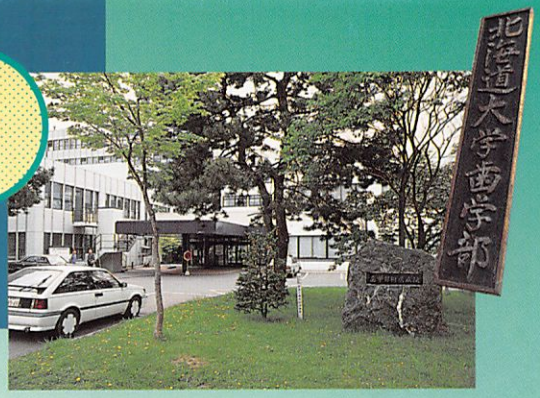
ZOOM UP



1994. No.86

歯界展望

大阪・高槻駅から徒歩でおよそ10分。広いキャンパス内に建つ病院・校舎は只今衣替え中らしく、活況を呈している。

ご紹介の松本学長も新学期を迎え、一年中で最も多忙な時期。アポイントの時間ギリギリまで打合せをされておられたようで、通された学長室の机上には各種書類が山積みされていた。“お待たせ致しました。どうぞお座り下さい”と笑顔で現れた学長。今年8月古稀を迎えられる方とはとても思えない艶やかな顔と丁寧な物腰・言葉使い。毎号お知らせするが頂上を極めた人間は、会った瞬間から、何故こんなに魅力的で人を引きつける力があるのか、と不思議にさえ思える。

大阪医科大学長

松本秀雄

――新入学生を迎えられ、将来期待される医師像と現代若者気質については？（年をとりますと、自身の若い頃の姿を多少忘れたり、錯覚したりしている部分もあるからかも知れませんが、と断った後）「一口に言って、昔と比べて子供っぽい、と感じますね。良く言えば純真ですが、起居振る舞いが粗野といいますか、年相応に育っていないように思えます。この原因として考えられるのは、幼稚園から小・中学等を通して、人間として最も徳育教育をすべき期間にその指導を怠っている学校を含めた社会や家庭にあるのではないでしょうか。しかし反面、一般教養などにみられるよう、知育につきましては、情報化社会となり、昔に比べ格段の差、進歩がみられます。しかしこうした片寄った環境は、特に将来医師となるべき人間には決して良いことではありません。技術がいくら一流でも、人の生命を預かる職業に携わる人間は、医の倫理、人の心や痛みがわかる徳育を身につけていなければ、医師としては失格と言わざるを得ません。技術と共に倫理感を学ぶこと。新入学生に強調しております」。

お生まれは山口県・下関市。――医科に進まれた動機は？「それがあまり自慢出来ないんですよ（笑）。本当は検事になりたかったんですが、戦時中で一人っ子だったものですから、親父がとにかく生きながらえることを、と考えたらしく、当大学の願書をどこからか手に入れ、受けなさいと（笑）。当時は5年制の専門学校でしたが、戦後医科大となり、再び予科からやり直し、昭和27年に卒業いたしました」。長年、教室ではむろんのこと、各地で講演されてきたからか、言語明瞭、明るく丁寧なお話ぶりが気持ちいい。現在、法医学、特に血液型からみた人類遺伝学は、日本を代表する研究者として国際的に名が高く、表わした著書も多数あるが、その中でも「日本人は何処から来たか（日本放送出版協会［刊］）」は、素人にもわかりやすく且つ面白く書かれているので、オビカバーから転載させて頂く。

「この百年間、常に人類学会の中心的課題としてとりあげられてきた日本民族の起源論の多くは、これまで人類学の主流となっている骨を中心とした形態学的な特徴や計測値を用いる自然人類学の立場からのものであった。私はこの立場から全く離れて、血液学や分子生物学という新しい立場に立って、“日本民族バイカル湖畔起源説”として提示しようとするものである。（後略）」とある。学長室の壁面には、40年余りに亘って調査・研究されて来た世界の血液型・Gm（ガンマー・マーカー）遺伝子の分布図が色分けされ、貼られている。読者の先生方も直接“歯”とは関係がないかも知れませんが、日本人のルーツを知るロマンの書として、ぜひ一読してみて下さい。

――先生と法医学との出会いは？「当大学に在学中、当時阪大から講義に来られていた大村教授と知り合い、卒後うちの大学に来ないかと誘われ、阪大医学部法医学教室に入局し血液型を研究し始めたのが、この道に入るきっかけとなりました。その後母校に法医学講座が開設されることになり助教授としてもどり、更に当時法医学の権威者として名高く、東大から東京医科歯科大学へと移られていた古畑教授のもとに国内留学。それが契機となりアメリカ・クリーブランドにあるウエスタン・リザーブ大学人類遺伝学教室の世界的に知られるスタインバーグ教授から招かれ米国へと留学することになりました」と、若き日の法医学、人類遺伝学との出会い、そして道程を語って下さった。

「クリーブランドでは先に留学されていた鈴木（章夫・東京医科歯科大学医学部長、当誌85号にてご紹介）先生と知り合いまして、当初単身赴任だった私は、週末になると先生宅にお邪魔して、ご夫人の手料理をご馳走になりました。今でも良き友人としておつき合いをさせて頂いております」。

――先生からご覧になった歯科については？「法医学と法歯学はもう親戚以上でして、私が教えを乞うた古畑先生のもとには東京歯科大学の鈴木（和男）先生を初め歯科部門からも数人勉強されに来ておりました。ご存知のように歯は人間の身体の中でもっとも硬組織ですから、歯そのものは身体の一部にすぎませんが、その情報量は非常に豊かなのです。人間の全体像を重点的に調べる法医学と個体の識別に力を発揮する法歯学。今後もお互いに深く関り合いを持ちながら警察と協力し社会に奉仕して行かなければならないと思っております。ただこの学問は多くの経験が必要でして、過去私も4,000体以上の解剖をしてまいりましたが、そういった意味では大変な部門で、年々法医学を志す人が少なくなって来ているのが残念です」。

頂いた履歴書を見ると全国13もの医学部で講師をされていた。――健康の秘訣は？「いやいや、以前は講義や講演を原稿なしで何時間でも話せましたが、今ではすっかりシャープさがなくなりました。しみじみ老いを感じております」と明るく笑われる。スマートで紳士。名前はむろん、人間的にもスケールの大きな国際人である。

●略歴

大正13年	山口県・下関市に生まれる
昭和27年	大阪医科大学卒業
昭和28年	大阪大学医学部副手（法医学）
昭和29年	大阪大学医学部文部教官助手（法医学）
昭和33年	大阪医科大学助教授（法医学）
昭和37年	人類遺伝学研究のため米国留学
昭和48年	大阪医科大学教授（法医学）
昭和50年	学校法人大阪医科大学評議員
昭和57年	日本法医学会理事
昭和57年	第28回日本人類遺伝学会総会会長
平成元年	大阪医科大学学長・理事（現在に至る）
平成３年	国際法医血液遺伝学会名誉会員

私と北海道大学歯学部

歯学部長
雨宮　璋

■略歴

昭和34年3月	東京医科歯科大学歯学部卒業
昭和34年4月	東京医科歯科大学大学院歯学研究科入学
昭和35年6月	東京医科歯科大学大学院歯学研究科中退
昭和35年7月	東京医科歯科大学助手（医学部附属難聴研究施設病理部門）
昭和38年5月	東京医科歯科大学講師（医学部附属難聴研究施設病理部門）
昭和41年8月	新潟大学助教授（歯学部口腔病理学講座）
昭和44年7月	北海道大学助教授（歯学部口腔病理学講座）
昭和45年4月	北海道大学教授（歯学部口腔病理学講座）
平成３年4月	北海道大学歯学部長

広大な敷地にゆったりとレイアウトされたキャンパス内。建物も歴史を感じさせる落ちついた外観をみせている。

“やー、いらっしゃい”と現れた雨宮歯学部長。基礎医学一筋に長年歩まれて来た方らしく、穏やかでゆったりとした口調、温かさを感じさせる。

ご就任は平成３年。昭和44年、新潟大学歯学部より、設立間もない当大学に赴任。以来25年近い歳月を歯学教育に注ぐ。「昭和42年に歯学部が設立されてから、卒業していった学生はおよそ1,200名。同窓会も地元札幌を中心とした北海道、東京を中心とした関東周辺、大阪を主にした関西の他、九州、東北と5つの本・支部がありますが、最近は年々道外の同窓生も増えておりますね。巣立っていった学生も既に壮年の働きざかり、卒業生の中から本学の教授も誕生いたしました」。

お生まれは静岡県・富士市。２年間のプレメディカルコースを修了後、東京医科歯科大学へと進む。「今の受験制度と違って、私達の時代の数年間は、医歯学部を志望する学生は、まずプレメディカルコースと称する課程で2年間勉強し、その後再び試験を受けて専門課程に入学したんです。東京医科歯科大学には、当時教養部がありませんでしたので、私達は全国各地の大学のプレメディカルコースを経て、歯学部の専門課程へ入学しました」。「別に親から強制された訳ではないんですが、どういう訳かこの道に入りましてね(笑)。卒後大学院へ進み口腔病理学を専攻しましたが、当時教授は石川梧朗先生、助教授は秋吉正豊先生。良い恩師、先輩に恵まれました。以来病理学でずっと通して参りましたから、歯科医師と言いましても、入れ歯一つ作ったことがないんですよ(笑)。でも学生の頃の実技は結構上手だったと自負していますがね(笑)」と往時の受験制度と歩まれた道を笑って話される。

――口腔病理学についての現状と将来は？

「日本の歯学教育の歴史の中で、病理学の教育は、歯の病変を中心に為され、研究もその方向で発展してまいりましたが、東京高等歯科医学校を設立され、初代校長となられた島峰徹先生は、歯科といえども歯だけを診ていてはだめだ。全身の一部としての口腔という視点から、口腔の病変をとらえるべきであると考えられ、そのための基礎医学の重要性を強調され、基礎医学の教育・研究にも力を注がれました。病理学教室は宮崎吉夫教授によって開講されましたが、口腔の病変を全身的な視野から把握しようという、口腔病理学の建学以来の理念は、脈々と受け継がれて

おりまして、私もそういった考え方に感化されて、病理学の道に入った一人です(笑)……。

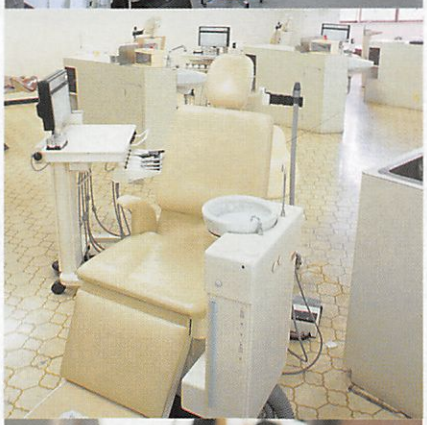
近年の科学技術の著しい発展や、医学・歯学における急速な進歩、これに伴う人口の高齢化や疾病構造の変化を背景に、口腔領域に発生する病変にも変容がみられます。特に口腔の二大疾患の一つといわれております齲蝕は、減少の一途をたどり、WHOでも21世紀の前半に齲蝕は克服されるだろうと予測しております。そのような情勢の中で、歯科医療自体の質的な変革が迫られておりますが、口腔に発生する疾患は決してなくなることはなく、益々増加し、更に多様化していくものと思われます。このような流れの中で、口腔の健康管理を通して、全身の健康管理に寄与し、人々の健康と福祉に貢献しようという歯科医の役割は、益々重要になってくるのではないでしょうか。

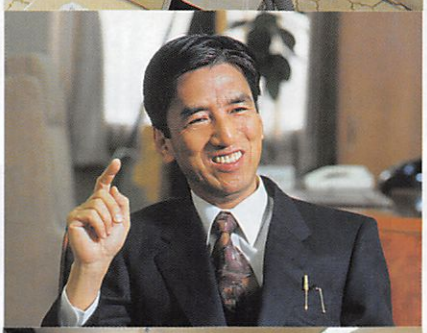
歯科保健医療の発展のためにも基礎医学は大切な責務を負っているわけです。

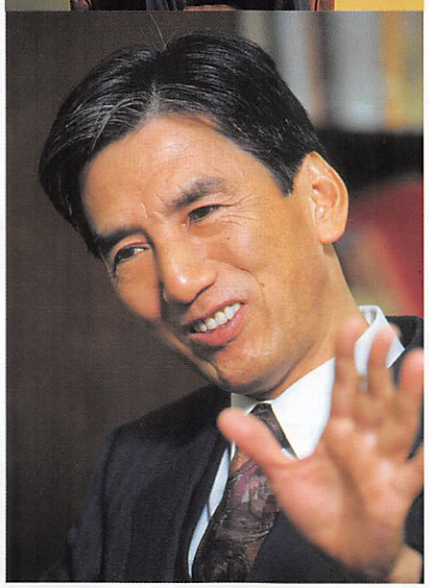
口腔病理学には、診断学を主体とした臨床病理学という臨床に直結した分野の他に、疾患の病理発生や本態を、実験的に究明しようという実験病理学の分野があります。アメリカやヨーロッパにおける口腔病理学は、臨床に密着した臨床病理学として発展してきましたが、日本では、基礎的研究を重視してきたという点で、諸外国と若干趣を異にしておりますね。このことがわが国における歯学の発展の一端を、担ってきたことも事実だと思いますが、これからは、基礎的研究は勿論のこと、臨床病理学の面でもその発展が期待されておりますし、私達自身もその期待に応えるべく努力したいと思っております」。

――大学改革案が出され、各大学は新カリキュラムを組みそれぞれ歩み出しているようですが、当大学は？「ええ、本学では平成7年度から新体制へ移行する予定で、いま詰めの段階に入っております。学部一貫教育を基本にし、歯学部でもそれに沿って1年次から6年次まで、一貫したカリキュラムの編成を検討しております」。

――歯学部長が常々歯科学生に話される言葉は？「先にも言いましたが、歯科医はただ歯を治すことだけではなく、口腔の健康管理を通して、全身の健康管理に寄与するという役目を担っています。学生自身ももう一度原点に立って、自らの在り方を見直し、将来の歯学及び歯科保健医療を背負って立つのだという、自覚と気概をもつことが大切だと言っております。口腔内に発現する病気は非常に多いし、それに気がつかなかったのでは失格です。患者さんの口腔の健康を責任をもって管理し、それによって全身の健康管理に寄与するのだという心構えが大切であると、連日言っております(笑)」。6年間の教育過程で多くの専門科目プラス実技を学ぶことは並大抵ではないし、果たしてそこまで出来るであろうか、という疑問は残るものの、そうした知識を持った歯科医師が多くなれば、患者さんの歯科医に対しての信頼度は倍加されるのは間違いないが……。「ええ、確かに6年では期間が短すぎます。以前の歯学教育は完成教育と言われましたが、これだけ細分化され、情報量が多くなって参りますと、6年間の課程で、それらを全て学習することは困難で、従来の完成教育から生涯教育へと転換してきたわけです。このような流れの中で、これからの歯学教育の目的は、一般的な歯科保健医療を担当し得る知識と技術の修得と共に、歯学の発展に伴う新しい医療技術の導入や、歯科医療の変革に、的確に対応できる能力の養成に、その主眼が置かれることになるかと思います。歯科医師の社会的役割の重要さを認識し、科学的思考力を養うと共に、生涯勉強し続けるための能力を培う場――それが大学となっていくと思います」。







――振り返っての人生は？「戦中、戦後の混乱期に少年時代を過ごしましたので、色々と気も多かったんですが、“人間万事塞翁が馬”の精神で、結果は総て良い方に解釈して、後悔することなく歩いて参りました(笑)。でもまさか大学の先生になるとは思ってもいなかったですね。気がついたら足が抜けなくなっていた、というのが実感です(笑)」。

気負うことなく、硬軟交えながら、ゆったりと話される。

――最後に北大の魅力、特徴と思われるところは？「そうですねー。北大生の基本的な気質は潜在能力に富み、大器晩成型というところでしょうか(笑)。でもこれには2面ありましてね。良いところは大らかで鷹揚、反面融通性に乏しく、小廻りがきかない、ということもあるようです(笑)。たとえ潜在能力があっても、それを発揮できなければ何んにもなりませんから(笑)。ただ私は、北大は大学生活を送る環境としては、最も良いところだと思っています。学生を一つの枠にはめないで、何事にも柔軟に対応できる能力と、豊かな人間性を養うことが大切だと思います。それが北大の魅力であり、特徴だと思っております」。

大らかで柔和。温暖な静岡生まれと言われるが、雨宮歯学部長ご自身が、最も北海道の人間らしいゆったりと広い心をお持ちのご様子。魅力的な……60才である。

図1・2　北海道奥尻島、奥尻町青苗地区の被災地（地震と津波と火災跡）

北海道南西沖地震での歯科用X線撮影装置

元札幌市中央保健所　参事
遠藤雅夫

1993年7月12日22時17分頃、北海道の南西にある
奥尻島の北北西の日本海で地震が発生し、
「平成5年北海道南西沖地震」と命名された。
震源地に最も近かった奥尻島だけでなく
北海道南西部の日本海側を中心に各地に災害をもたらした。
この時奥尻町では地震だけでなく、
津波と火災と山崩れとの複合大災害となり、
特に大津波は津波警報の放送よりも早く、
地震発生後3～4分で襲来し、家と人々を海に攫った。
この津波のそ上高は最大30.6mにも達した。
更に同町の南側の青苗地区では大火災も発生して
その災害の大きさは他を圧した。
この地震と津波による死者と行方不明者は平成5年8月末現在で、
死者は青森の一人を含んで身元確認ができた200人と
身元不明2人にのぼり、行方不明者は29人であった。
奥尻島から直線距離で約190km離れた江別市にある私の家でも、
大きく不気味な横揺れが長く続いた。
マグニチュードは7.8であった。あれから間もなく
一年が経とうというのに、まだ行方不明の方々が大勢おられる。
被災者の方々の健康と早い復興とを祈るとともに、
亡くなられた方々のご冥福と、行方不明の方々が
一日も早く発見されるようにとお祈り申し上げる。

図2

個人識別と

図3 津波による被害の一部

北海道大学医学部法医学講座で、教室に歯科用X線撮影装置があると便利だが、という話がでたのは去年の春頃であった。そう毎日使うものではないが、あればいろいろと便利なのだが。ということで物色した結果、長田電機工業株式会社の歯科用X線撮影装置を手に入れることができた。しかし、これはモービルタイプだったので、大学の解剖室だけで使うのならいいが、死体検案等で学外へ出るときはどんな場所ででも使えるようでなければならないし、そのためには運搬するのに便利でなければならない。撮影についても特に地面に横たわっている遺体を台に乗せずにそのままの位置で使いたい。という教室員達の意見がだされた。

その話を聞いてすぐに、私が普段使っているカメラ用の大型エレベーター三脚が頭に浮かんだ。あれならば、例えば使用場所が鉄道病院時代に私の経験した、昭和38年の国鉄の鶴見事故のときのような、線路脇の不整地での作業でも真っすぐに立てられるし、屋外で使うときにも横風に対する安定性が良く、運搬するにしても片手で持てるからいいのではないか。それに、このタイプの大型三脚ならば、雲台を三脚の上にも下にも取り付けられるようになっているから応用範囲が広くなる筈だと、ここまでは考えたものの、さて、あの重いヘッド(X線発生装置)をどうしたら取り付けられ、角度と方向を決めるのに自由に回転させることができるか。三脚そのものの強度は、私が使っているものは人が乗れる頑丈さだから、装置の重量は問題がないが、あとはX線撮影装置を三脚に取り付けるためのアダプターがないとならない。

ここまでは考えてみたが、素人が考えるよりも 機械のことは機械屋さんだということになり、いつも歯科の機械のことで無理をきいてもらっているオサダさんの札幌営業所に相談してみた。「何か考えてみましょう」といってくれたその結果は、意外に簡単なもので収まったため、総体の重量も殆ど増えずに済むことになった。タイマーボックスは術者の防護のためにコードを長くとってもらえることになり万事うまくいきそうになった。

装置は手に入ったし、保持装置の改造の目処もたったのだが、このX線装置は今日明日に使うという程急ぐものではないので、何かのついでの時でもあったら手を加えてください、といって改造を依頼したが一週間もたたないうちにこの地震になった。

オサダさんから「明日の午後にはできあがります」といわれた、地震発生から三日後に北海道警察本部本部長から検屍の要請が教室にあり、寺沢浩一教授から個人識別・検屍のために、塚本哲助手（医師）と三上八郎助手（歯科医師）との二人が奥尻町に行くことを

図4　倒壊した奥尻町青苗岬灯台
平成6年1月現在は仮設灯台がこの横に設置されているが、4月には高さ14 m、光到達距離29kmの新灯台が完成する予定である

図5　奥尻町に設置されたＮＴＴ衛星通信車載局

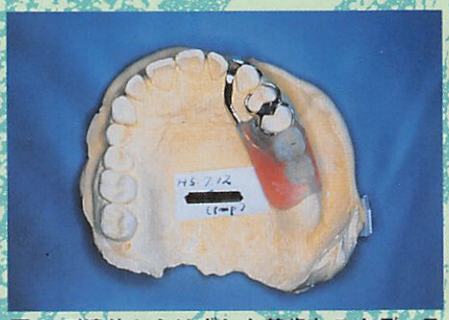


図6　ご遺体からはずした義歯とスタディモデル

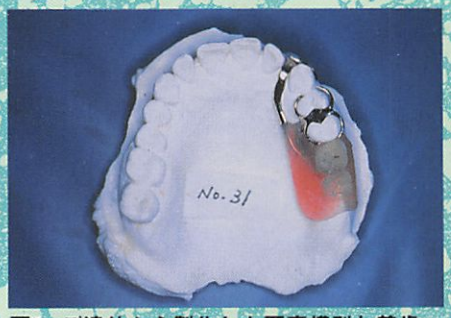


図7　ご遺体から製作した石膏模型と義歯

図8　ご遺体から製作した石膏模型とスタディモデル

図9　Ｘ線フィルムでのスーパーインポーズの１例

命じられた。

ここで本論から外れるが、ついでながら間違い易い「検屍(死)」と「検視」とについて述べておく。死体検査には検屍と解剖とがあり、検屍(検案)とは解剖をしないで死体の外表検査だけを行なうものであり、死因等についての推定診断である。確定診断は解剖と諸検査とを必要とする。ただし歯科医師は死体検案書を書くことはできない。

今回の災害でも、検屍で焼死と思われていたご遺体の死因が、解剖によって水死であることがわかった例がある。この例などはその死因が解剖によってのみ知ることができたのである。なお死体検案書と死亡診断書とは同一様式である。

以上のような事情なので、検屍も解剖も、医師、歯科医師個人或いは医育機関等が自己の判断で、または学問的な興味で勝手にこれを実施できるものではなく、また依頼された事項についてだけ鑑定するものである。

また同じ発音ではあるが、検視には検察官が行なう司法検視と警察官等が行なう行政検視とがあり、これらは異常死体について行なわれるが検視についての詳細は省略する(検屍と検視とについては、法医診断学・錫谷徹・南江堂を参照した)。

教室員の出発に際して、服装、装備等について検討されたが、たまたま私が昭和29年の洞爺丸事故のときに札幌鉄道病院から、個人識別のために救護班として出動した経験があった。あれから38年も経ってはいるが、検屍の対象は主として水死体であり、且つ相当損傷が激しいことが予想されること、等については、洞爺丸事故当時と変わることはないので、この経験も一つの参考にした。

装備の原則として、生活のすべてを破壊されている被災地での活動なので、着替えを多く持つこと。傷んだご遺体を検案するのに、中途半端な姿勢をとっていると疲労が激しくなるので、衣服の汚れを気にしないでも良いようにセパレートの雨カッパを着ること。マスクは臭いを嗅ぐには不適当なこと。手術用ゴム手袋、家庭用ビニール手袋、作業用ビニール手袋を準備すること。歯ブラシを準備すること。等が検討された。

教室員が派遣されている間、私は歯科所見についての後方支援をすることにして、勤務先の札幌市中央保健所で待機することにしたが、この時、洞爺丸事故からの38年間の社会情勢が如何に大きく変化したかということを痛感させられた。

洞爺丸事故当時は15号台風(洞爺丸台風)で、北海道は全道にわたって甚大な被害を受けていた。北海道はその地理的関係から、これ以前もこれ以後もこの時程まとまった台風災害を受けたことがない。後志管内岩内町は強風下の火災によって全滅に近い被害を受けていたし、札幌の市街地から見える山々は殆どすべての樹木が薙ぎ倒されていた。交通の幹線である鉄道も至る所で大被害を受けていた。そのため札幌から函館までの輸送も汽車で長時間を要し、疲れはてて到着した。私はこの時初めて救護班の特権?で特二に乗ることができた。特二というのは、戦後米軍専用に指定された今でいうリクライニングのロマンスシートで、特別二等車といわれていたものである。この頃になると日本人も乗れるようになっていたが一種のステータスシンボルでもあった。

またこの頃の長距離通信は手紙が普通で、急ぐときは電報を使った。電話は長距離になると交換を通すのでなかなか繋がらず、札幌から東京まで半日も待たされることも珍しくはなかった。おまけに感度が悪くて大声でも聞き取れないような状態であった。警察や保安隊(自衛隊の前身)で使っていたウォーキー

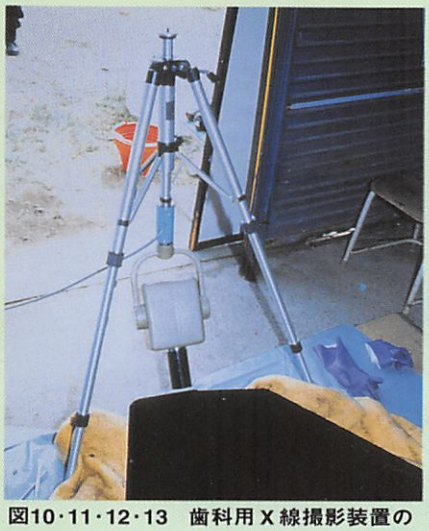


図10・11・12・13　歯科用Ｘ線撮影装置の使用状況

図11・12ではフィルムを洗濯ばさみで固定している。タイマーボックスは車庫の外に置いてある

図11

図12

図13

北海道南西沖地震での個人識別と歯科用Ｘ線撮影装置

トーキーも感度は余り良いものではなかった。文献が欲しくても、コピーの器械もなかった。ましてパソコンなどは夢にもでてはこなかった。

服装は手術用の重い黒のゴムカッパに、厚手の作業用ゴム手袋といういでたちで、細かい仕事には手術用のゴム手袋を使用した。鑑識課職員が使っていたカメラもフィルムはモノクロで、照明はバルブをいちいち取り替えて使っていた。報道は新聞とラジオだけでテレビはまだ一般にはなかった。

こうした事を一つ一つ今と比べてみると、今回は人員の輸送にはヘリコプターが使われて、迅速に疲労もなく災害地に到達することができた。通信は、災害発生後の早い時期にNTTによって衛星通信が確保され、電話には周囲の物音や話し声がよく入り、災害地からの電話とは思えない状態であった。また今では電話と同じく、これが当たり前なのだろうが、私がもっと驚いたことは、ファックス通信が通常と全く同じに自由に使えたことであった。これは、最初の一時期は警察のものを使って現地に送っていたが、間もなく普通の回線でできるようになった。このために現場から個人識別のための文献等の請求が私の所に電話で入ると、すぐにコピーをとって送ることができた。文献探しもパソコンを利用した。被災地での服装も軽いビニール製のエプロンやビニール製手袋が使われ、服の汚染を防ぐのには、釣り等に使うセパレートのビニール製雨カッパを使ったが現地では汚れ防止よりも防寒の意味が強かったようであった。写真も色バランスの良いカラーフィルムを十分に使えたのと、各種の性能の良いレンズを使えたので、極めて詳細なものを残すことができた。

教室員が出発準備をしているときに、現地で検屍と個人識別とをするために、是非とも歯科用Ｘ線装置を持っていってもらいたい、という北海道警察からの要請がきたので、改造中の装置を持って行くことになった。しかし、改造のためには明日の午後までかかる。そこでオサダさんの札幌営業所に、何とか明日の朝までに作ってもらえないか、と重々無理を承知で頼み込んだところ、いつも以上に無理をして下さった。そのお陰で装置は翌朝早く、雨の中を札幌市の丘珠空港からヘリコプターで奥尻町に向かって輸送された。

Ｘ線フィルムは作業場所が災害地であるため、現像定着等に薬品の調製や水を使用しないで、インスタント現像ができるタイプのものにして、大きさはデンタルとオクルザールとを多数準備した。

この携帯用に改造した歯科用X線装置は、奥尻町青苗地区の被災地到着の翌日から大活躍をすることになった。奥尻町では既に奥尻町国民健康保険病院の西村伸介歯科医長の大変なご努力によって、生前に通院していた歯科診療所のＸ線フィルムとカルテからの情報とが、地元奥尻町はむろんのこと札幌市、旭川市等の各地から集められていた。

教室員は個人識別の目的で、生前フィルムと同じ角度と方向とでご遺体の撮影をして、Ｘ線フィルムでのスーパーインポーズを行った。生前フィルムと同じ角度と方向にするために角度も方向も少しづつ変えて撮影して、最も生前フィルムの像に近いものを使用したので、一枚の生前フィルムについて何枚かづつのＸ線撮影が行われた。

この歯科用Ｘ線撮影装置は当然のことながら、北海道南西沖地震の発生等を予期して用意したものではない。全くの偶然で地震発生と装置の改造完成とが一致したために被災地での活躍となり、撮影した多くの写真の内100枚以上のＸ線フィルムを個人識別に使用することができた。

使用状態は、ご遺体が地面と同じ高さに横たえられていたので、ヘッドは常に、三脚のエレベーターの下方に取り付けたままで使用した。ヘッドやタイマーユニットは、汚れた手のままで触れるように、用意していった薄い透明のビニール袋を被せたが、これは雨よけやヘリコプター離着陸時の砂埃避けにも役立った。

フィルムの固定は、ご遺体の状態が殆ど正常のものから腐敗あるいは白骨化が進んだ状態までさまざまであったので、大型の洗濯挟みと両面テープを単独或いは併用で使用して効果をあげた。

この災害の記録については、北海道新聞社から全体像が「1993年7月12日北海道南西

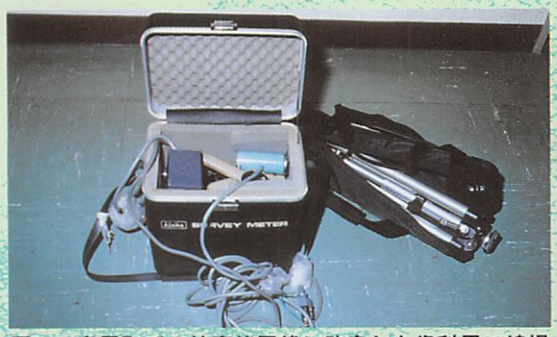


図14　奥尻町での検案終了後に改良した歯科用X線撮影装置
ヘッド、アダプター、タイマー、延長コードが格納されている。三脚はストラップ付き専用ケースに収納されている。

図15　タイマーと電源部プラグ
コードについているビニールは、電源部を雨、埃等から保護するために、コンセントに差し込んだらこれを裏返してプラグを被覆し、必要に応じてビニールテープ等でコンセント部に貼りつける。

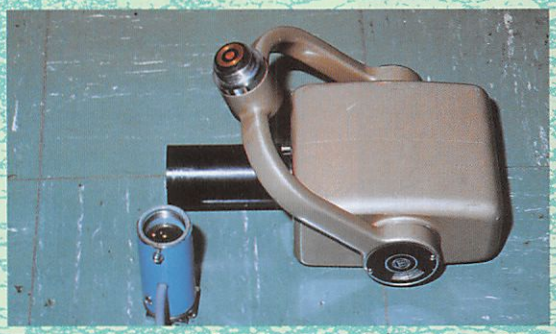


図16　ヘッドと三脚取り付け用アダプター
水色のアダプターの下面には大型カメラ用のクイックシューが取り付けられている。写真のアダプター上面をヘッドにねじこみビスで固定する。ヘッドは通常診療室で使用しているアームから外した状態。
（クイックシューはカメラを三脚に取り付ける際にワンタッチで着脱するためのアダプターである）。

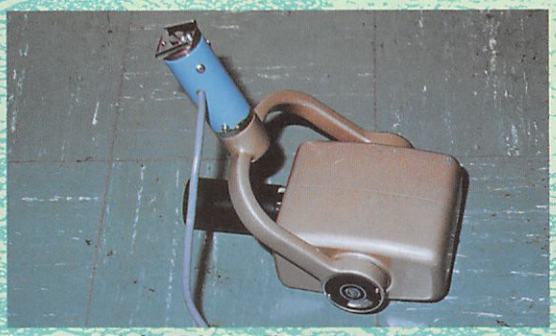


図17　アダプターを取り付けたヘッド
アダプター上面に三脚に接続させるクイックシューが見えている。

沖地震全記録」として出版され、北海道開発局小樽開発建設部から北海道南部日本海側の災害について、「北海道南西沖地震被災情況」等がでている。

医学的なものとしては北海道医師会の「北海道医報」に10ページにわたって特集記事が組まれている。雑誌「看護」には函館赤十字病院枝沢寛外科副部長の「北海道南西沖地震における奥尻島での救護所開設について」がある。

歯科関係では北海道歯科医師会の「道歯通信」に奥尻町国民健康保険病院西村慎介歯科医長の「奥尻島地震の報告と考察」が掲載されている。雑誌「歯科技工」には東日本学園大学歯学部付属病院歯科技工部坪井久雄主任の「緊急災害時における歯科医療活動――奥尻島での救援活動報告――」が掲載されている。

この他にも発表されているものがあるかと思われるが現在私の手元には以上の著作だけがある。北海道大学では関係各学部の共著として、この地震関係の記録を残す総合的な計画が進んでいるので、この中で医学的な記録も纏る予定である。

救護や検屍の記録を纏めておくことについては、私が洞爺丸事故についての記録を、事故後10年ほど経ってから探した時に、どこにも纏った記録が残っていないことを知った。青函連絡船だけでも5隻が沈没して、死者約1,400人を出したあれだけの大事故でありながら、記録がないのは如何にも残念なことである。特に写真についてみると、報道関係では記者が撮影してきたフィルムをすぐに現像して、濡れたままのフィルムをガラス板に貼ってプリントし、すぐに捨ててしまうとのことであった。また、警察は一件落着すれば廃棄してしまうとのことであった。従って当時の写真は個人識別に使ったものも一切残っていなかった。

昭和60年8月12日の日航ジャンボ機墜落事故については、群馬県歯科医師会のご努力によって立派な記録が残されているので、災害対策についての貴重な参考資料の一つといえるであろう。

記録には現場でないととれないものと、後から纏められるものとがある。写真やX線写真はその時でなければ撮ることができない。今回教室員が現地に行くときに、今撮る写真が何の役にたつかどうかは後で判断すれば良い。何でも目に入ったものは撮っておくように進言したが、学問的なものが多く残されたことは良かったと思っている。

ただし、写真撮影については、ご遺族や関係者に不愉快な気持ちを抱かせたり、不要な反発を買うようなことには細心の注意が必要である。報道関係者の暴力的ともいえる取材に対する批判があるが、例え学問のためであったとしても被災者やその関係者の前では十分な配慮をするべきことであろう。従って場合によっては、撮影を断念せざるを得ないこともあって当然である。

写真の良いところの一つは、具体的であるとともに、後からその場の状態を思い出すときに、確度の高い記録が残せることである。

今回の地震災害についても、歯科医学的所見は重要な位置を占めていた。ご遺体の印象

図18　三脚エレベーター上端部に固定したクイックシュー
下端部にも同様にクイックシューが固定してあり、両方が使える。

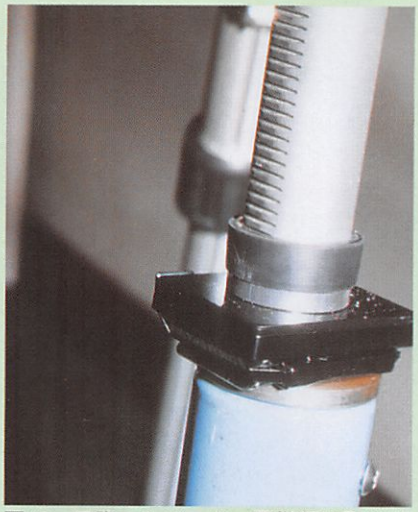


図19　三脚エレベーター下端部に取り付けられたクイックシューにアダプターのクイックシューを接続した状態
上端に取り付けるときもこれと同じになる。

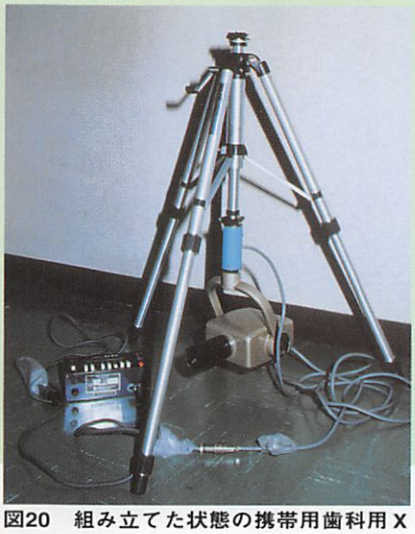


図20　組み立てた状態の携帯用歯科用X線撮影装置
タイマーをヘッドから遠くに設置するために、延長コードを使用している。ジョイント部の両端に見えるビニールは、ジョイントを雨、埃から保護するために両端から二重に被覆する目的である。

図21　ジョイント部をビニールで被覆した状態
必要に応じてこの上からビニールテープ、ゴム輪等で固定する。

採得や口腔内所見、歯科用X線写真フィルム等による、歯科医学的所見での個人識別は86体、43%であり、その内の20体はX線写真が決め手であった。

ちなみに日航ジャンボ機墜落事故の個人識別では、乗客乗員520名中の235体がいわゆる歯型等によって確認され、歯科医学的所見のみのものは143体であった。雲仙普賢岳の火砕流では、43人の死者行方不明者のうち、23体の歯科医学的所見が重要であり、歯科医学的所見のみのものは9体であった。北海道の身元不明死体は毎年約350体があるが、1992年度にはこの中の27体の身元が判明している。この内10体は歯科医学的所見によるものであった。

災害や事故は無いに越したことはないが、現代の生活ではこうした事から全く免れる訳にもいかない。交通関係だけ見ても航空機は乗客数と運航機数が延び、鉄道は高速化を進めている。函館で山に激突した全日空機のばんだい号は衝突時の速度が300km/hといわれている。今の新幹線の列車が約200km/hで運転されているが、もしもこれが脱線して、対向線路にでて正面衝突したとすればどうなるか。国鉄鶴見事故では、すれちがっている横須賀線の速度は約100km/hであり、貨物列車はそれよりも遅かった。それでもあれだけの大惨事になっている。

300km/hで山腹に激突したときの遺体の損傷を考えると、今後の高速輸送での事故発生時の検屍は非常に困難なものとなり、個人識別も困難なものになるであろう。また、列車事故では鶴見事故での経験から、新鮮完全死体であっても、持ち物が全く別の場所に飛ばされているときは身元不明となり、個人識別が必要になる。

また高速道路上での玉突き事故も既に北

北海道南西沖地震での個人識別と歯科用X線撮影装置

海道の道央自動車道で発生した凍結道路上での数十台という多数の事故例がある。太平洋戦争末期の東京空襲の時の街の中は、あらゆる形の死体で埋まっていた。今後人口密集地の広範囲で大震災が起これば、あの時と同じ場面が再現されることであろう。

こうした災害や事故による大量の、離断体(ばらばらになった死体)や移柩体(他人の身体の部分が入りこんだ死体)の検屍は、今後も残念ながら増えることを考えざるを得ない。このような状況の中で、今までの検屍の状況をみると、歯科医学的所見が非常に重要になっているので、私達歯科医師は、事故や災害による死者の検屍についての知識を多く持つように努力する必要がある。そうすることによって、身元不明になっているご遺体を、一日でも早く遺族の元に帰すことができるのである。

この歯科用X線撮影装置を震災被災地で使用した経験を纏めると、小型軽量であるので100Vの電源さえ確保できればどこにでも簡単に運搬ができること。装置の組み立てや操作にあたっての特別の技術が不要なこと。などの基本的な長所があった。

この装置は、奥尻町での活動を終えた昨秋以来、長田電機工業(株)札幌営業所とネジ部分の強度の改良などを続けた結果、写真のような現在の形になった。これを更に使い易いようにすること。例えば通常は診療所で、モービルタイプ或いは壁掛タイプとして使用しているもののヘッドだけを、取り外し機構を簡単にすることによって、写真用三脚を利用して付け替えることができれば、非常用だけのために装置を待機させることもなく、より効率的な使用ができるであろう。

今回の改造を機会に、これを原型として災害や事故等の非常用、或いは往診用の歯科用X線撮影装置としての、今後の発展的開発が望まれる。

TOKYO
Officers of Tokyo Dental Association

会　　長／鶴巻　克雄
副 会 長／前野　　長
副 会 長／生田　博康
副 会 長／水島　廣一
専務理事／太田喜一郎
理　　事／渡辺　真宏
理　　事／塚本　　亨
理　　事／大貫　泰男
理　　事／安藤　武雄
理　　事／近藤　勝洪
理　　事／福田　弘一
理　　事／内山　文博
理　　事／渡辺　三雄
理　　事／高橋　哲夫
理　　事／中島健一郎
理　　事／森　　正幸
理　　事／由井　　孝
監　　事／伊藤　　直
監　　事／山崎　文男
監　　事／子安　健一

社団法人

東京都歯科医師会

東京・市ヶ谷駅近くにある新歯科医師会館の玄関ロビー、横山大観画伯が描く
富士の絵をバックにずらりと並んだ東京都歯科医師会の役員の皆さん。
昨年100周年を迎えたが執行部が変わったので顔ぶれもだいぶ入れ替わったご様子である。
最初に、都歯会の会長であられると共にFDIの副会長をも兼任される、
日本の歯科医師の顔とも言うべき鶴巻会長と、氏の片腕として全体を補佐される
太田専務理事のお二人に、今年７月初旬、WHOからの要請に応えて開催される
「世界口腔保健学術大会」の企画、イベントを中心に語って頂いた。

会　長／鶴巻克雄

専務理事／太田喜一郎

会長：現在東京都歯科医師会は58郡市区に分かれ、会員総数8,600人弱で都民約1,200万人をカバーしております。が、各大学からの卒業生や病院その他でトレーニングを積む医局員や勤務医を合わせますと、1万人は軽く越しているのではないでしょうか。これはスウェーデンやオーストラリア一国の歯科医師総数にもあたる人数ですから、必要とは思うものの、会員の方達とのマンツーマンの接触は少なく、現実は連合体という形にどうしてもなっていってしまいます。そうしたことから私達の主な役目は行政・都庁との接渉や歯科医師会のリーダーとして日本歯科医師会との話し合いです。幸い日歯の会長や常務理事も都歯の会員のお一人ですし、同じ会館ですから、身近にすぐ話しが出来ます。そういった点では他県より恵まれておりますが、日本における最大の会としての責任も同時に重い、と自覚しております。

Q：今年最大のイベントと思われます、WHOからの要請で開かれる「世界口腔保健学術大会」とFDIが4月から1年間を「口腔保健年」と定めた東京でのシンポジウムの内容につきましては？

会長：私はWHOの歯科部門の責任者であるバームス先生とはFDIとの関りから、この「口腔保健年」につきまして数年前から話し合いを続けて参りました。結果、今年7月8～10日迄、日本歯科医師会、東京都歯科医師会、厚生省、東京都庁が中心になりましてシンポジウムを開催することになりました。プログラムの内容の概略は――8日が「大都市における歯科医療の供給と将来展望」と題し、東京都の姉妹都市――ニューヨーク、ロンドン、パリ、北京、京城等から担当・専門家を呼び、大都市における歯科医療の問題点や供給状況を話して頂きます。9日は今問題化されつつあるHIV(エイズ)の感染予防と罹患者等に対する歯科医療対策を、都と私共都歯科医師会が中心となり提供する予定です。ただこれ等は我々専門家にとっては非常に有意義なものですが、一般の方々にはちょっと難しい。そこで一般都民の方々には口腔保健年にちなみ、従来から都、都歯会、衛生士会、技工士会がいっしょになって推進しております、「いい歯いきいきキャンペーン」を今年はさらに活発化、積極的に展開していく予定でおります。

Q：8日のテーマであります大都市における問題点につきまして、日本はどのような講演を？

会長：これはわが国の大都市を、東京と大阪の2つに絞り、東京からは都の衛生局の参事の方が行政の立場から。大阪からは歯科医師会の立場から、それぞれお話しして頂くことになっております。私と都の衛生局技監(ドクター)の2人が共同で座長を務める予定です。

Q：そもそもこのWHOにおける世界口腔保健年の発想はどこから？

会長：WHOは毎年創立記念日(4月7日)に健康についての会議を開催しているのですが、今回その会でインド・ボンベイ在住のケーキーミステリーさんが、この口腔保健についてアピールし採り上げられることになりました。WHOでは今年一年を"Oral health for a healthy life"というテーマで推進して行きますが、たまたま私がWHOのバームス先生と話し合っている内に、日本の8020運動の話しにおよび、"それは素晴らしいフレーズだ、我々も使えないか"ということになり、"Keep 20 teeth till your 80→Smile through 8020"と変化していきました。日本歯科医師会の発想が世界に飛び出し、その要請から今年東京で「世界口腔保健学術大会」を開催することになり、ハッスルしておりますが、ご存知のような不況で頭を悩ましております(笑)。

Q：都民に対してのPRの具体的な内容につきましては？

太田：先程会長よりも話しがありましたが8020運動を達成させるため、東京都は西暦2000年を目指し、

- 3歳児で、むし歯のある子
  ……3割以下に
- 12歳で、永久歯のむし歯の数
  ……ひとり3本以下に
- 50歳で、なくした歯の数
  ……ひとり3本以下に

の3・3・3運動を「いい歯いきいきキャンペーン」と題し実施しております。それをWHOの今年のテーマである"Oral health year"とドッキングさせ、都民にやさしくPRしていくつもりです。まず、世界に誇る木床義歯。作成法は皆さん既に歯科医学史で学ばれていると思いますが、外国では昔はスプリングによる義歯吸着という形をとっておりました。ですから、現在世界的に使用されている吸着法は実は日本人が発見したものなのです。そうした義歯の展示やオハグロ、又CAD．CAMなど近代的なコンピューターを使ってのムシ歯の処置法、噛む力をフィルムに記録する器械など、ビジュアルなものをふんだんに使ってわかりやすく「歯の健康展(仮称)」と題して、都民に口腔保健の普及と啓蒙をはかって行きたいと思っております。WHO創立46年の中で、初めての企画ですから、会員8,600人を通して都民にきめ細かくパンフレット等を配布、お知らせしたいと考えていますが、何しろ膨大な費用がかかりますので、四苦八苦しております(笑)。この企画が夢にならないよう祈っております。

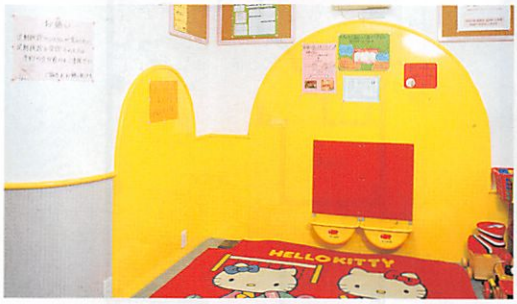
その他、大都市ゆえに起こる東京の問題点、都民のために考えておられる相談コーナーの設置や歯科医療の今昔等語って頂きましたが、誌面の関係でお知らせ出来ないのが残念。次の機会にお知らせしたいと思います。

医療法人社団 哲楓会

やまうち小児歯科

岐阜県中津川市東宮町4-59

理事長 **山内哲哉**



長野県との県境に位置する四方を山で囲まれた中津川市。シーズン中は旧中山道沿いにある妻篭・馬篭や自然公園、湯量豊富な温泉群を求めて賑わうが、オフシーズンの今は濃緑の木立と枯野、わずかに残る雪の中で、街並は静かな佇まいを見せていた。

ご紹介の「やまうち小児歯科」は、駅から700～800m、旧国道257線の道路沿いに建っているが、ここだけは、オヤ! 何だろう、と思わせる面白い雰囲気。3階建の屋根の下には2つの三角が、その下2階部には大きな丸が、共にピンクで枠どりされている。院長先生のお話しによると、これはロボットを表しているとのこと。大人はちょっと気がつかないが、道路を走る車の中からでも、感情豊かな子供はすぐ目に止めることであろう。建物前面は5～6坪の空地。そこにはゾウさんを形どった水飲み場や子供が乗れるパンダの置物が、小さな公園風に作られている。傍らの駐車場は遠方からの患者さんが多いのであろう、20台以上の車が楽に止められるゆったりとしたスペースを確保。

一歩入った待合室。通路を挟んでコの字型に並べられたやや広めのグリーンの椅子。片側はキティちゃんのじゅうたん。遊び道具も一杯。受付も子供の顔が見えるように低いカウンターになっている。黄、赤、グリーンと色彩も鮮やかだ。

診療室内も待合室同様、ユニット前面にはミッキーマウス、白雪姫、ドナルドダックや熊さんの置物。壁に沿って並んだ小児用特注ユニットの無影灯にも大きな縫いぐるみ人形が吊下がり、低めに作られているとはいえ、怖い(?)ユニットがほとんど目に入らない。又、チェアーに座っておよそ45°位の天井には貼め込みテレビが、好みのアニメを映し出している。

忙しそうに立ち働くスタッフの皆さんのユニホームの袖にも小さなマスコットの縫いぐるみ。院長はグリーンのトレーナー。毎週違った色のトレーナーを用意され着替えられるとのこと。子供心をとらえた、そのまま園長さんの雰囲気だ。

アプローチから診療室まで、一貫して明るく楽しく、カラフルに……。児童心理を巧みに演出した、見ているだけでたのしい院内である。

院長(理事長)は昭和60年3月に愛知学院大学大学院歯学研究科小児歯科専攻をご卒業。そのまま同大で助手を2年経験後、生まれ故郷である此処中津川市に戻り開業。尚、奥様も一般大学を卒業後、衛生士学校に入り衛生士の資格を取得。休日、時間外急患のアシスタントもすべて担当されておられるとのこと。陰の協力・演出者、大蔵大臣(?)も兼任されているのは間違いないと思われるが?

童顔でやさしい印象の院長。明るく子供好きと一見してわかるスタッフの皆さん。そうした雰囲気が子供さんや母親にも伝わるのであろう、患者数も驚くほど多いと聞く。

Q：小児歯科を選ばれたのは？

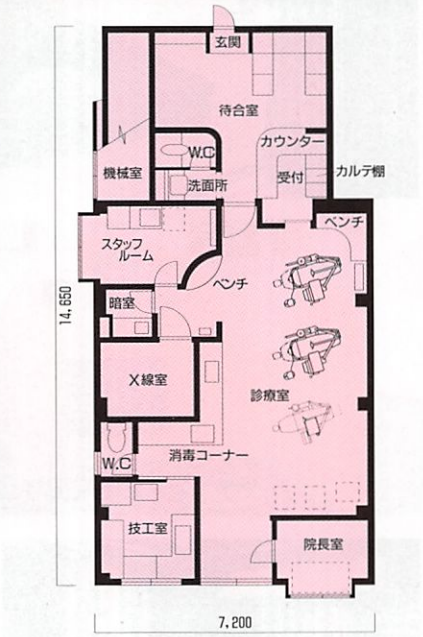
院長：大学4年次、黒須(一夫)先生の小児歯科の講義を聞いて楽しそうだな(笑)、と決心しました。先生の印象がすごく良かったのも大きな原因の一つですね。それと入れ歯作りが好きじゃあなかったから(笑)。

Q：小児歯科の魅力は？

院長：発育途上にある子供の心理学から始まって、治療、矯正、口腔外科等総てを学ばなければなりませんが、何よりの要素は、私自身が子供好きであることですね。何と言っても子供は素直ですから子供と話すことがとても楽しいです。子供の笑顔は疲れを感じさせません。

Q：でもこの時期、小児専門は大変と聞きますが……。

院長：この辺りで専門は少なく、瑞浪(みずなみ)まで行かないとありません。開業時多少の不安はありましたが、先輩の話を聞いて、中途半端はいけないと自分に言い聞かせ(笑)。来院者の子供の口腔内は大学にいた頃よりひどい状態でした。小児歯科の教科書に載ってるようなあらゆるケースに出会いました。今後も母親とのコミュニケーションや指導を密にす



ることにより、地域の中で共に成長、努力していきたいと思っています。経営ですか？うーん、タッチしていません(笑)。

Q：たのしくなるような医院ですね。

院長：もっとカラフルで、たのしい医院にしたいんです。昨年内部を改装したのですが、限られたスペースですのでなかなか難しく……。女房の友達がハワイで開業しているのですが、そこは受付もお城みたいで、もっと楽しそうなんですよ(笑)。

Q：テレビも設置されて……。効果は？

院長：大学ではヘッドホーンを使用していましたが、それですと治療時にすぐ術者の手を見るんです。途端に体を固くして怖がり始めますから、効果はありませんでした。テレビですと視線がテレビにいくので治療がスムーズに進みます。浸麻時にはほとんど気がつきません。

Q：奥様の貢献度も大きいようですが……。

院長：ええ、確かに。子供好きで、衛生士学校を卒業した後、先輩がやられている名古屋の東山小児歯科クリニックで働いておりました。開業当初は受付から始まり総て彼女がやってくれまして、今でも銀行、仕入、支払等は女房まかせ。私は時間があれば講習会などに出かけてしまいますので治療以外の事はしません。それに経営は得意じゃありませんから(笑)。

Q：夜も遅くなるのですか？

院長：ええ、この辺りは共働きの方が多いものですから……。その方達が仕事を終わってから、40～50分かけて来院されることもあり、どうしても遅くなります。スタッフも文句も言わずがんばってくれています。スタッフの協力がなければやっていけませんね。

Q：オサダのユニットをどうしてご使用されているのですか？

院長：大学の勤務医時代は使ったことがなかったんですが、バイトに行った先がオサダで。故障が少なく使いやすくメインテナンスが非常に良かったからです。それに所長始め皆さんとても良い方々で信頼できたからです。改装にあたって、オサダの工場や営業所に何回も行き、2人で(奥様と)考えて特注として作ってもらいました。

Q：大人の患者さんは来られませんか？

院長：最初の頃はお年寄りの方など来られましたが、当院は子供専用だとお話しすると、“ああ、大人の免許は持っていないんですか？”と(笑)。応急処置はやりますが、他は知人の一般歯科に紹介しております。

Q：小児の治療で注意事項がありましたら…。

院長：やはり話すことですね。TSD――つまりTELL(話す)、SHOW(見せる)、そしてDO(治療する)。この3つを必ず守るようにしております。3～4才位の子供が一番難しい年齢ですが、よく説明すれば全部でなくとも、理解はしますよ。

Q：治療されているお子さん以外の子も3～4人診療室内で遊ばれているようですが……。

院長：ええ、診療の雰囲気やスタッフ、又現在治療中の同年令の子供が平気でやっているのを見て安心させるためです。私も時々手を上げて笑ってあげると相手もニッコリ挨拶。時間もかかり大変な面もありますが、たのしいですよ(笑)。

清水歯科クリニック

栃木県足利市大前町649-1

院長 **清水隆公**

東北新幹線・小山駅より両毛線に乗り換えおよそ40分。足利市は群馬県との県境に位置する町で、市名も中世の頃関東管領となった足利氏に由来する。駅前案内図をみると、上杉氏によって復興された足利学校跡や織物の産地として全国に知られた町らしく、織姫神社などが駅周辺に点在しているようだ。

ご紹介の「清水歯科クリニック」は駅から車でおよそ20分。市郊外、遠方に県立自然公園が望まれる住・商地の一画にある。道路に面し建つ、曲線薄型の表示看板。回りがブロンズで中にステンレスをはめ込み、夜は外からのスポットライトで、医院名が浮かび上がるように作られている。敷地およそ300坪と言われる前面は、およそ15台は可能と思われる駐車場。本格的な鉄筋作りと思われる2階建の建物外観は薄茶色。曲線をゆるやかに描く低いL字型の目かくし塀の側面から玄関へ。風防室でスリッパに履きかえドアを開け待合室に。室内は中央に低いテーブル。それを囲むように窓に沿っておよそ13～14人掛けの薄紫の待合用椅子。受付は白木台のオープンカウンター。完全密閉の室内にはBGMが流れ、静かな落着いた雰囲気を醸し出している。

診療室内は、大き目に作られた素通しガラスの窓に沿って、濃淡グレーの〈ファインGM-RL型〉が、移動自由な簡易パーティションに区切られ3台並ぶ。ユニットの背面は衝立状の間仕切り壁。前面は手洗いキャビネット、後面は通路、それに沿って、スタッフルーム、消毒室、X線室、技工室が並ぶ。

ユニットに座ると滝、松、石を配した本格的な日本庭園。目を上げると遠方には春の山々が。申し分のない、ゆっくりとくつろげる診療室である。

配色も黒、白、グレー。スタッフの皆さんも水色の上衣に紺色のカーディガンと、都会派、若者好みの色で統一されているが、冷たさは全く感じられないのは、礼儀正しく明るいスタッフ陣の印象か。

院長は昭和59年、岩手医科大学歯学部をご卒業。卒後は第2保存科で4年間研修生活を。その後東京厚生年金病院で2年、更に開業にそなえ、東京と船橋で4年間勤務医を経験され、昨年2月、生まれ育った此処足利市で開業へと踏み切られた。

充分なキャリアと清潔で明るい診療室。患者さんにとっても頼もしく好印象な歯科医院と映るのであろう。患者数も多い。

Q：歯科医師を志された動機は？

院長：小さな頃から手先を動かす細かいことが得意で。それなら歯科医師になってはどうかと祖母に勧められて……。

Q：で、今のご心境は？

院長：勤務医時代と違って気苦労はありますが、キチッとやれば患者さんに喜ばれますし、やりがいのある職業で、今はなって良かった、と思っております。

Q：敷地も建坪（住居共約100坪）もゆったり広く、素晴らしい医院ですね。全てご自分で？

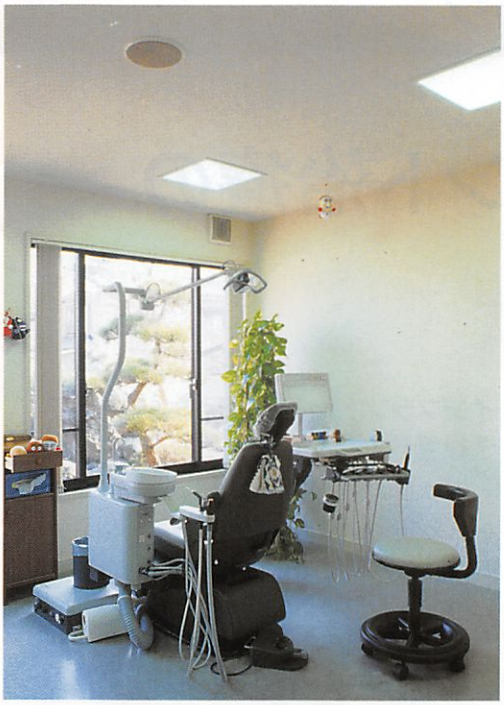
院長：いえいえ(笑)。診療室の機器類は自分で手あてをしましたが、土地、建物は父から借りております。青春時代に大病をしつつも、現在は工場を持ち、経営者としてやっている父に何から何まで世話になり、恵まれていると感謝しております。が、少々口の方が！(笑)。

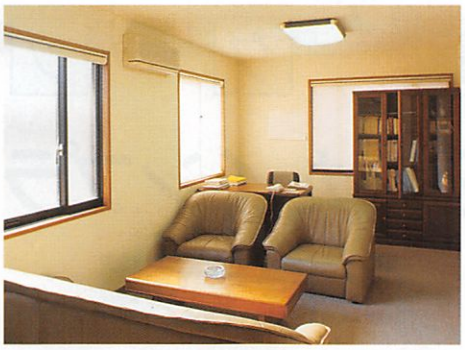
Q：患者数と患者層は？

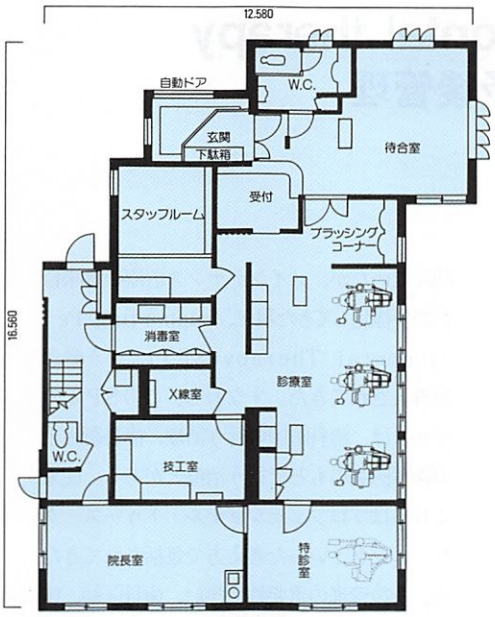
院長：開業当初は1日約30人位。最近は40人位になって来ております。層は子供からお年寄りの方まで各年代に亘っております。夕方6時過ぎは会社勤めの方が多いですね。保険の内容は、国保、社保の本人、家族、それぞれ1/3位の割合です。

Q：診療室を作られるにあたってご留意された点は？

院長：やはり明るく採光を充分に、ということです。将来にそなえ、奥面に取り外しのきく一室を設け、特診室か4台並列にユニットを、と考えております。これも建物に多少余裕があったから出来たんでしょうね。ユニット前面の日本庭園は親父の趣味ですが(笑)、時々鳥が水浴びに来たりして、患者さんも我々スタッフもリラックス出来、役立っていますね(笑)。







配色は、先にユニットカラーが気に入りましたので、それに合わせ総てモノトーンでまとめました。欲を言えば前面の窓の区切りをなくし、もっと視界を広く取れば良かったと思いますが、診療室内については、ほぼ満足しております。

Q：ご自身の勉強とスタッフ教育につきましては？

院長：まだ開業間もないので、自分の勉強は今のところ雑誌などを読むことくらいです。スタッフも、早番と遅番の交代制になっていますので、なかなか一同に会することがなく、1人に言い、あとは伝言という形になっていますが、将来はブラッシングコーナーもありますし、衛生士もおりますので、患者さん教育も積極的に進めて行きたいと思っております。

Q：ご経験はほとんど都会地、ギャップを感じられますか？

院長：そうですねー。一概には言えませんが、東京の人は審美的なものを含め、自分の歯を気にする人が多く、従ってこちらも神経質になりますが、この辺りはおおらかと言いますか、治療に関しては楽という印象が強いですね。

Q：ご開業にあたってオサダをお選び下さった理由は？

院長：東京厚生年金病院時代、他社製品とオサダを使いましたが、オサダはメインテナンスが良かったとの記憶がありましたし、開業に先立ち先輩にも相談しましたら、やはりユニットを買うのならオサダが良いとのアドバイスを受けましたので……。

Q：オサダの中でも〈ファインGM−RLタイプ（右前システム）〉をお選びになったのは？

院長：カタログを見まして形が良いことがまず気に入りました。RLタイプを選びましたのは、患者さんの前にアームがないため自由に出入り出来ることや外の景色もよく眺められると思ったからです。待っている間に本など自由に取って読むことも出来、患者さんの評判も良いようです。光重合やエナック内蔵も、初めは少々高くつきますが、持ち運びの手間が省け、長い目でみればずっと良い、と思ったからです。

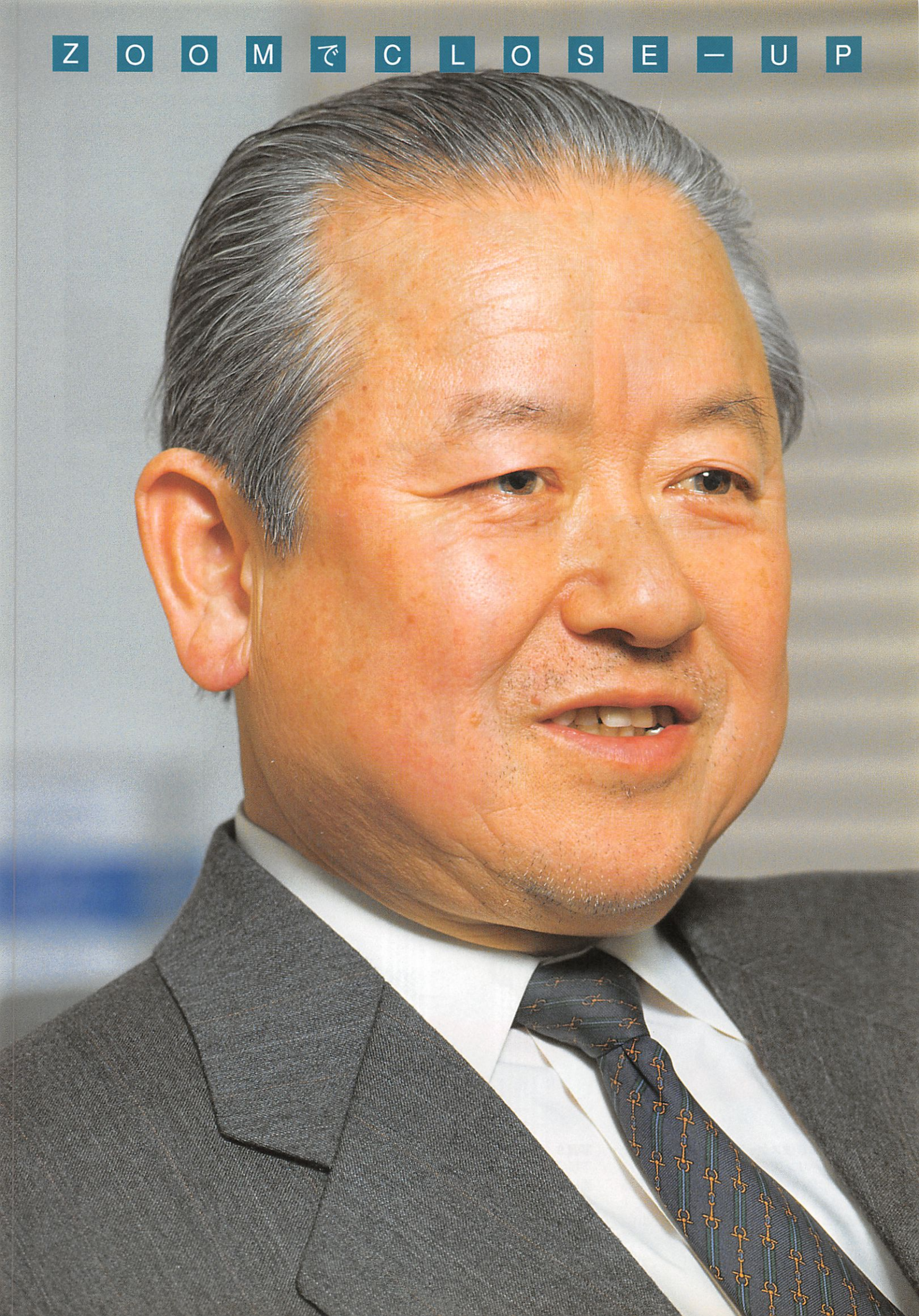
Q：将来は？

院長：まだ始めたばかりで先々のことまで考えている余裕はありません。今はとにかく、地域の患者さんに喜ばれる医院でありたいと。どんな職業・商売でも同じでしょうが、相手の身になって考えること、それが大切だと思っております。

Q：最後に岩手医大歯学部第14期生の皆さんに（笑）。

院長：勤務医生活が長く、皆先に行ったと思っていましたが、やっと追いつくことが出来ました。とにかく身体には気を付けて頑張って下さい。

ZOOMでCLOSE-UP



誌上交友録

渡邊郁馬先生の巻

東京都老人医療センター
歯科口腔外科部長

東武東上線大山駅から徒歩5～6分にある我が国を代表する老人専門のための医療施設、東京都老人医療センター。その3階、歯科口腔外科部長室に渡邊先生をお訪ねした。

今回は元・昭和大学歯学部長で現在は東京・本郷でご開業中の和久本貞雄先生のリレーにより、老人医療一筋に35年余り歩まれている渡邊先生にご登場頂いた。

「私と和久本先生の出会いは、往時私が『老人歯科』という本を書き先生にプレゼントしたのがきっかけでした。その後先生も私にご自身の老年歯科の訳本をお送り下さったりしている中に、老年歯科医学会を作ろうか、という話しが持ち上がり、その設立に向かって当初から理事としてご参加下さったりで、こん日に至っております。学会設立の話しがあってから10年、設立されてから9年目になります」。高齢化社会に向かってまっしぐらに歩む日本。当然それに伴う医療体系も増大していった。「ええ、私が昭和34年にここに来た当時は医師は20人前後、入院患者は400人位だったんですが、現在は700床、外来1日約800人、医師も100～130人に増えております。治療科目も、小児科と産科以外は総て設置されております。歯科も最初は私1人で入院患者のみを対象にしておりましたが、次第に増えて現在では常勤4人、非常勤4人となっています。老人の患者はほとんど他の疾患と関連がありますから、そうした点で専門の科目が総て揃っている当センターは、患者さんにとっても心強いし、私達にとっても良い勉強になります」。現在日本老年歯科医学会理事長として各地で講演、又執筆されている。その研究・発表内容の概略は「詳しくは老年歯科医学会で学んで頂きたいのですが、現在すすめている研究は、咀嚼能力と身体状態についてで、かなり密接した関係にあるということがわかって来ました。握力、平衡機能(開眼片足立)、骨塩量を主に調べたのですが、その内興味深いのは咀嚼能力と骨塩量との比較。また、ラットについてはゼリー状の軟食と固形の硬食とで21ヶ月飼育し、X線像で比較してみましたら、前者は明らかに下顎骨および頭蓋骨の透過性の亢進がみられ、病理組織的にも骨粗鬆化を示していました。今後さらに研究が進めば咀嚼能力と骨塩量との関連が明確になると思いますし、老年者の食事は軟らかく食べやすいこと、という考えもあるいは…と思われます。又、咀嚼能力と脳血流についても調べましたが、咀嚼している場合と咀嚼していない場合では、明らかに血流状態が違うことから、よく咬んで食べることは、ボケ防止につながるのではないかと考えています。その裏付け調査を今進めているところですが…」と資料データを分かりやすくご説明下さる。

お生まれは静岡県静岡市。医者であるお兄様の勧めで東京歯科大学へ。卒業後保存学を勉強中、当院の歯科に出張を、との話しから“君、行って学位論文を書いて来い”と派遣され、そのまま居ついてしまいました。お陰様で44年に“老人の歯髄の治癒能力”という論文で学位を取ることが出来ました、と笑われる。その後45年に医長。46年老人専門病院が出来るとの話しから(それ以前は主に低所得者・精神薄弱者などの養護施設附属病院)、故関根学長の推薦で設立に参画。以来老人医療一筋。数少ない専門家として超多忙の日々をお過ごしのご様子。

――老人の治療にあたって、臨床家の先生方に何か注意事項がありましたら…「先程お話しましたように、老人の治療は他に疾患を持っているケースが多いことからそれだけ病気のリスクが高い。ですから総てを今、と考えずに、昨日よりは今日、たとえそれが10%～20%でも良くなることで双方が満足する心が大切です。それをゆっくりと30%から更に50%へと段階を上げる気持ちで治療していくことです。近頃盛んにクオリティー・オブ・ライフとか、インフォームド・コンセントが大切と言われておりますが、患者さんの身になって、技術はともかく、自身が精一杯やったことを患者さんとその家族の方々に理解して貰うことが大切です。病気の患者さんの立場に立って、その回復の為にお手伝いをする気持。専門家であるからといって、決して自分勝手に治療することは良い結果を生みません」。永年高齢者と接して来られただけに、ゆっくり丁寧、明瞭な言葉使い。それ等も老人医療には欠かせない条件と思われる。

――老人歯科医学の今後については「人間は皆、年をとっていく。我々はそれを加齢、エイヂングと呼んでおりますが――個々によってその健康度合は皆ちがっています。健康な老人、病気を持った老人を、例えば70～75才位から徐々に若い方にさかのぼって、年齢別に調査研究したデータを小児時から来たデータとドッキングさせる追跡調査ですね。大変難しいし、息の長い調査法ですが、それが分かれば、加齢と共に起こる病を克服する条件の一つが解明されるのではないかと思います。もちろんそれには、経済や心理、環境等、複雑な背景もかかわって来ますが…。老人医学の今後の大切なテーマですし、ぜひやらねばならないと考えています。又それにはどうしても医科との交流が必要ですね。医師は入院すると入れ歯をはずしてしまう。聞けば、危ないから、と。しかし先程来からの話しのように、その為に起こるであろう、骨塩量の減少や脳血流からと思われるボケなどが促進されてしまうのです。歯科材料など発達した現在、咀嚼機能の回復にも、すぐに対処も出来る筈ですから、我々も医科の知識を学ぶと共に、医師もぜひ歯科の知識を吸収して欲しいと思っております」。歯も身体の一部。誰にでも分かることであるが…。身体全体から歯科治療を考えて来られた渡邊先生のお話しを聞く内、医療とは、何のために、誰の為にあるのか、という疑問がいつまでも心に残ってしまう。

海外だより

ドミニカ共和国事情（その2）

DOMINICAN REPUBLIC

海外だより　ドミニカ共和国事情（その2）

コロンブスが1492年にやって来て、
以後ウエスト・インディズ諸国は
ヨーロッパ各国の権力外交の争いの場となってしまった。
最初スペイン領となったドミニカも、
スペインとフランスの勢力争いに巻き込まれたり、
ハイチ軍に占領されたり、
スペインに併合したかと思うと、
独立を目指してスペインと戦ったり、
と流血の歴史を繰り返している。
やっと1863年に独立共和国を誕生させたものの、
今度は内乱・内戦の絶えない独裁国家の道を、
トルヒヨ暗殺の1961年迄たどっている。

経済

それ故ドミニカは、ハイチと並んで今でもアメリカ大陸中、最も貧しい。人口900万人の84％が、月平均60ドル程の収入という。その殆どが農産物収穫中心の生活、鉱山地帯では採鉱に当っている。

農産物は豊かで、コーヒー、ココア、さとうきび、パイナップル、オレンジ、バナナ、バナナに似たプランタン、各種野菜や花が主産物で、又ドミニカの主要輸出となっている。

鉱山分野の主産物は、フェロニッケル、金、岩塩、石膏、大理石だそうだ。

近年観光も、ドミニカの経済を支える重要な柱となっている。

独裁者トルヒヨの死で、ひとまず戦国時代も終りを告げ、政治も安定してきたので、輸出用製造・製産工場地帯としての「インダストリアル・フリー・ゾーン（無税工業地帯）」も、92年末時点で国内に38地帯誕生している。

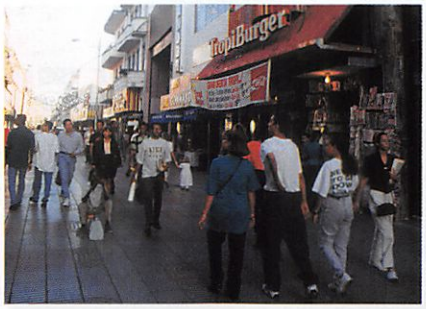
ドミニカ経済中、最もダイナミックな分野となりつつある「インダストリアル・フリー・ゾーン」は、各国企業がドミニカの低賃金労働力を使って製産し、無税で輸出出来るシステムである。但し税金さえ払えば、その生産物の20％迄は国内で販売しても良いこととなっている。

インダストリアル・フリー・ゾーンに依って、存在する工場数はまちまちで、私が見学した首都サント・ドミンゴのそれは20位の工場が製産に当っていた。サンヂァゴには65もの工場数があるという。

日本は未だ進出していないらしいが、中国系工場は、ドミニカ全土のフリー・ゾーンに既に60も存在すると聞いた。外国系で次に多いのは韓国だそうだ。

ちなみにドミニカの対日感情は大変良い。日本製品の品質の高さ、そして日本人が信用を大事にすることが、彼等の日本に対する尊敬の念となっているようだ。たまたま「おしん」放映中だったことも、日本に対する親近感と尊敬の念を高めることになっていたのだと思う。

女・家庭問題という共通点から、「おしん」は特にドミニカの女性達を感動させ、大評判となっている。男性の方は、一日働いて疲れて帰ってきて、「その上又、あの苦労話を見



るのは――」と、いささか敬遠気味だが、男女に関係なく異口同音に言うことは、「日本は、あの様な苦労を乗り越えて、此処迄来たのですね」だった。

「旅の恥はかき捨て」式の日本観光客が増えれば、この良い対日感情も変わっていくこととなろうが、今のところは、「日本人は私達の文化（考え方・やり方）を尊重してくれる」と大変好日的である。

それに反して、対中感情は驚く程悪い。60もの中国系工場で、中国人との接触が頻繁なこともあろうが、「中国人は嫌い」とこれ又異口同音なのだ。理由は、「彼等は優越感を持っていて、私達を見下す」が多い。中国の縦社会的姿勢・話し方が、彼等にその様に認識されるということも理由のひとつと思われる。

「韓国は？」と聞くと、「うーん」と少し考えて、「日本と中国の中間」と、うがった返事が戻ってくる。

日本に対する好感は、5年程前から始まった日本のドミニカ援助プログラムも関係している様だ。日本大使館の活動のひとつとして、日本国際協力機関・JICAが農業、技術分野でヘルプしているらしいが、詳しいことは分からなかった。

話がそれたが、ドミニカの経済、特に金融関係は、スペイン系とアラブ系のコントロールとなっているそうだ。「ニューヨークがユダヤ系にコントロールされているのと同じ」と表現した人もいた。

サント・ドミンゴの繁華街を、ちんどん屋さながらの、屋根のついたトラック風の物体が走っているので聞いたら、「ハイチのバス」と言う。サイケデリック式に車体一杯に様々な色を塗りまくったガタガタ車で、何か地底から出現したという異様感を漂わせている。「バス」と言うが、窓はなく、私には気味悪く映った。

ドミニカ滞在中、あちこちでこの「バス」を見かけたが、目的はハイチからの買い出しだそうだ。ハイチはお金は沢山持っているが、買うものが無い。それでドミニカに「何でも手当り次第」買いに来るのだそうだ。おせんべいからオイルに至る迄、全く「何でも」買って行く。ドミニカで1ガロン20ペソ（160円）のオイルが、ハイチでは米価で35ドルで売られているという。

「33ドル50セントの丸儲けですよ！」と通訳ガイドのアンソニーは笑う。

過去に22年ものハイチ軍に依る占領の憂き目を含め、この隣国との紛争は並々ならぬものがあった様だ。今はひとまず平穏だが、ドミニカはハイチに対して、「あまり近づくな」といった気分で、決して油断していない。

サント・ドミンゴ空港

インダストリアル・フリー・ゾーン

サント・ドミンゴの郊外にあるロス・アルカリゾス・フリー・ゾーンを見学させて貰った。

いかめしい入口は、銃を持った兵士が警護に当り、入口の辺りには、暴走族さながらのバイクに跨がった逞しい男達が屯していた。「モト・コンチョ」と呼ばれるモーターサイクル・タクシーである。

ゾーン内は広々として人影も少なく、別世界である。大きな建物がゆったりした間隔で建っているが、騒音は無いし、道路に面した入口は家屋の入口さながらで、芝生に花壇があったりして、工場という印象からほど遠い。

しかし工場内に入ると、雰囲気はガラリと変わる。何百人というドミニカのワーカー達がボリュームを一杯にあげたラジオ音楽のもと、気忙しく働いている。機械の音と共に、なかなかの騒音だ。

私が詳しく見学させて貰ったイタリア系アティモ社の社長に依ると、ドミニカ人は音楽をかけると良く働くのだそうだ。そう言えば、この国は人の居るところどこに行っても音楽で溢れている、といった感じだ。タクシーに乗って、そのボリュームの凄さに辟易して、二度程音を小さくして、と頼まねばならぬほどだった。

アティモはイタリア語で「瞬間」という意味だそうだが、3年前から此処でTシャツの製産に当っている。中国から木綿を輸入し、それを裁断してTシャツに縫い上げ、真っ白のままでアメリカに輸出している。買手先がそれに、デザインやメッセージを入れて売るわけだ。

アティモ社の前の道路に、貨物の車両とおぼしきものが2～3両ずつ立っていたが、週にこのひとつの車両が一杯になる製産をしないと割りが合わないそうだ。

綿の重さにも依るが、1両に大体7,200ダース(8万6,400着)入るという。満杯車両が幾つかになると、港に運び輸出する。その間銃を持った番人が24時間制で車両の警護に当る。

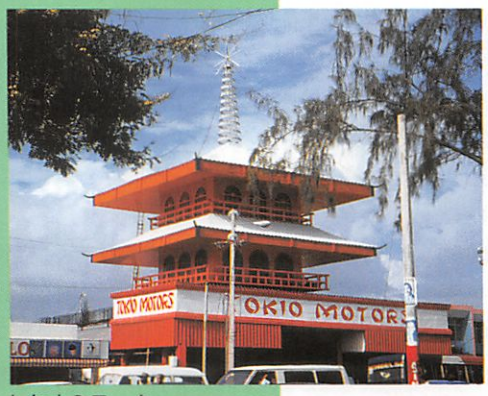
Free Zoneの外には“タクシー”のモーターバイクがひかえている

ハイチのバス

ATTIMO社(Tシャツ工場)

ATTIMO社の荷物警護人

大学



トキオ？モーター

値段は綿の重さにも依るが、1ダースで大体12～15ドルといったところだそうだ。見せて貰ったTシャツは超大で、私が着たら膝下迄楽にカバーするものだった。

この工場で働く人達は250人で、勤務時間は朝の8時から夕方5時迄。ノーマル・スケジュールは週44時間（土曜は半日）で、週給は「ミニマム」292ペソ（ほぼ2,336円）。

アティモ社はイタリアでファッションビジネスをし、此処でTシャツ製産をやり出したのは、ビジネスの多角化と思われる。

ビジネスは結構儲かっている様だ。経営陣の兄弟姉妹とその家族が一緒に住んでいるアパート代は、月17,000ペソ位、とアンソニーは言う。

フリー・ゾーンを出る時、門のところで、製品の無断持出しをしようとしていないか、車のトランクの中まで厳重にチェックされる。銃を持った人達に囲まれるのは、決して良い気持ちではない。

歯科医のよもやま話

ドミニカ共和国の歯科医数は4,000人位で、中1,600人ほどがサント・ドミンゴ在住と言われる。

病院の歯科主任から詳しい話を聞く予定だったが、取材寸前に彼の都合が悪くなり、開業医2人から話を聞くこととなった。

●アンドレア・バエズ医

4階建位のビルの3階にバエズ医の治療室があるが、他にも5つ程それぞれ別の開業医の歯科治療室があり、中央が共同待合室といった面白いシステムである。

バエズ医は此処で開業して10年になり、患者数は日に9～10人。患者の最年長者は94才で、彼のところに来た時にはもう全く歯は無くなっていたので、今入れ歯を作っているところという。診療時間は朝9時から正午迄、午後は3時から7時迄となっている。

歯科医になりたかったがなれなかった祖父の意志を継いで、彼が家族で初めての歯科医となった。サント・ドミンゴ国立大学で学び1984年に卒業してすぐここに開業されたと言う。

学費の件で面白いことを聞いた。お母さんが大学の論文科の秘書をしていたので、学費は50％のディスカウントで済んだという。そう言われてもピンとこないので、具体的に幾ら位だったのかと聞くと、「1課目当り1.5ペソ」という耳を疑う数字が出てきた。つまり正規の学費は、当時は1課目当り3ペソだったという。

現在、バエズ医のルート・キャナルの治療代は、2～7回の通院で、大体2,000ペソという。アンソニーに後で概算して貰った。抜歯が300～500ペソだから、1人1回の治療代を平均500ペソとみると、1日丁度5,000ペソ、週に3万ペソとなる。なかなか良いビジネスと言わねばならない。

Dr.A.Baes

この国の人達は、特にアメリカと日本、そしてドイツに対しては大変友好的です。

食べるのがやっと、という貧しい人達が過半数のこの国では、歯の衛生に対する関心は、一部の層を除いて皆無といってよかろう。だから虫歯が歯の問題では一番多い様だ。

バエズ医は、自分がリーダーとなって、歯科医グループ組織を作り、無料で貧しい人達の治療に当っているという。社会奉仕である。彼等の多くはシャフト（小屋）やテント暮らしで、月に10ドルかそれ以下で生活しているそうだ。追い立てられると、移動して、又同じ生活を繰りかえす。

そういう貧困生活にあえぐ身でありながら、貧しい人達は「ジェネラス（気前が良い）」とアンソニーは言う。「何にも持っていないのに、手持ちのフードをくれようとするのです」。

「この国の人達は、外国人を歓迎します。大変友好的ですよ」とバエズ医は言う。「アメリカと日本、そしてドイツに対しては特にそうです」。

高度テクノロジーの先進国に対する畏敬の念が関係している様だ。この国を走っている車の殆どが日本製である様に、医療その他の分野でも、日本のテクノロジー的「存在」が与える影響はまことに大きい。

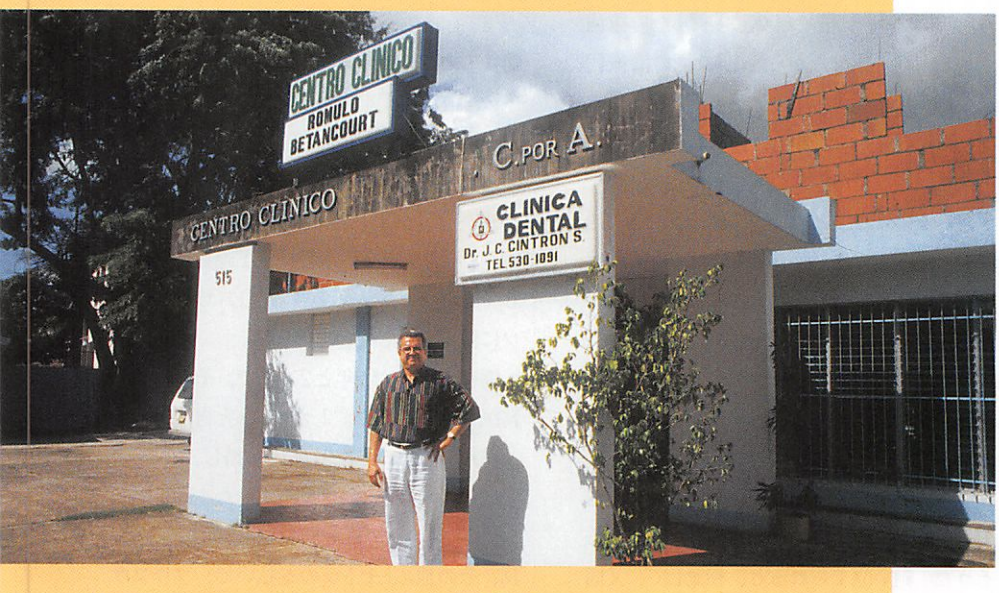
●J・カーロス・シントロン医

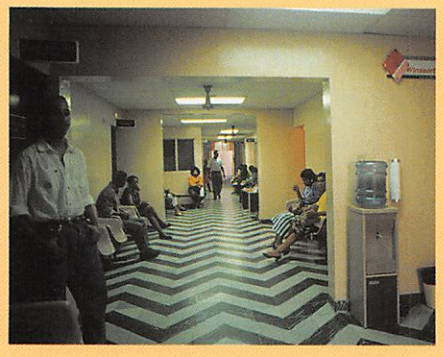
一般医として4年働いたが、とても自活出来ないので、更に2年半勉強して歯科医に転向したシントロン医の時は、1学期につき2,500ペソの学費だったそうだ。私立だったからだろう。国立の学費は、1課目につき26ペソだったが、卒業する時には既に50ペソに値上がりしていたそうだ。

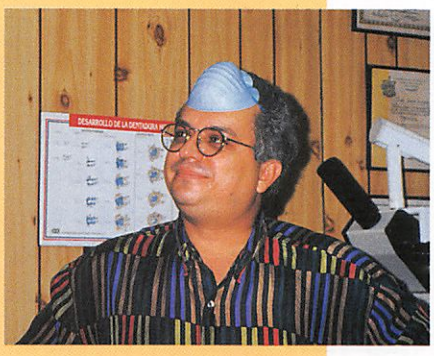
開業してまだ1年と2ヶ月で、その前は勤務医の立場だった。しかしやっと自活出来るメドがついたので、91年に結婚し、92年の半ばにこのクリニックを開業した。そして今や、クリニックのレント代、税金、助手、器具、その他エトセトラの支払いで、フウフウ言う身となった、と笑う。

そして、やっとパパにもなった。それもマチョを証明する男児で、1才になったばかりだ。「あと3人位欲しい。もっと欲しいのですが、それ以上は生活するのに難しいと思う」とのことだ。

出来てまだ1年のドミニカ医療協会の医療保険は医者とその家族の為のもので、治療費の25％が支払われる。ドミニカ人口の70







%は、ヘルス保険なし、と言う。

制度の関係で、一般医としては食べていけないので、自活出来る可能性を求めて、シントロン医の様に歯科医に転向する医者は増えるばかりかと思われる。しかし歯科分野の展望も決して明るいものでは無さそうだ。

その理由のひとつは、スペインがドミニカ人の歯科医を閉め出し始めたこともある。数年前迄ドミニカの歯科医は、大挙スペインに行って治療に当った。その他の国々にも多く出かけているそうだ。しかしなんと言ってもスペインが一番だった。というのは「スペインには歯科医が居なくて、治療は見られたものではなかった」から、とシントロン医は言う。

ドミニカの歯科医はスペインでライセンスを取る必要が無かったので、学校卒業後、すぐスペインで開業する人も多かった。それ程歯科医のニーズがスペインでは高かったので、「私達は出かけて行って、奴隷の様に働いて、稼いだものです。しかしもうそれも出来なくなりました。というのは、多くのスペイン人がドミニカで歯科を学び、帰国して開業し出したので、スペイン歯科協会はドミニカ歯科医締め出し方針を実施しているからです。多くのスペイン人歯科医は、今や百万長者ですよ」。

彼の話を聞いていると、今のところはスペインは「歯科医天国」という感じだ。一方ドミニカで歯科医がまともな生活をしようと思ったら、「開業するしかない」と彼は言う。

彼のいう「まともな生活」とは、自分のアパートに住めて、結婚出来て、子供を産む、ということである。レジャーとしては、月に1回ほどディスコに行ければ満足、というところらしい。

ドミニカのナショナル・スポーツは野球で、1年中行われている。しかし最もポピュラーな大衆のスポーツ・イベントは闘鶏で、大小様々な競技場が全国にあり、日曜ごとに開催されている。最近カジノもオープンしているが、これは大手ホテルに泊まる観光客や、ビジネスマン向けだ。

最後にシントロン医に、「この国の若者の夢は何ですか？」と聞いたら、彼はキョトンとした。「夢」などという贅沢な言葉は、庶民の生活では聞かれない言葉・思考であるらしい。

「そうですねぇ」と彼は暫く考えてから言

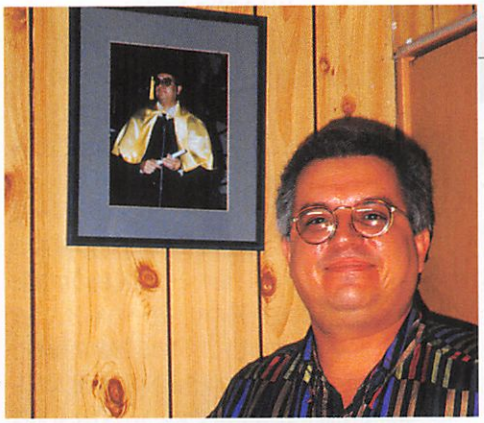
った。「大学に行って勉強することです」。

「何を、何の為にですか？」と、些かひねくった質問をしてみたら、お手上げの感じで、「さぁ、知りません。食べるのが精一杯ですから――」という返事だった。

つまり、大学に行けば、「食べられるようになる」という思考で、その先――自分は何になりたい、何をしたい――は未だ頭の中に誕生していないわけだ。

現在人口の7～10％が大学に進学、私立大学となると2％位でしょう、とのことだった。

ドミニカ共和国で第2の大都市、ハイチ寄りのサンヂァゴに、3時間かかるバスで行って見ることにし、停留所迄タクシーに乗ったのだが、停留所が見つからずに乗り遅れてしまった。



Dr.J.C.Cintron

スペインには歯科医が居なくて、治療は見られたものではなかった。

ドライバーが本職かアルバイトか知らないが、走りだしてから、交番その他でその大手バス会社の拠点を聞く始末となった。驚いたことに、交番に依っては、「知らない」という返事にもぶつかった。何となく、如何にこの国の人達が「その日暮し」かということが、如実に伝わってくる出来事だった。

結局そのタクシーでサンヂャゴ迄つっ走ることとなり、「サント・ドミンゴより生活費が50％安くてすむから」と、1ヶ月前サンヂァゴに引越したアンソニーの友達の家にまず乗りつけた。この人にサンヂァゴを案内して貰う手筈となっており、ついでに家の中も見せて貰った。綺麗な女性で、2ヶ月程前迄サント・ドミンゴ在の米会社で働いていたが、ドミニカ人上役のセクハラで、首になった模様だった。アメリカや日本と異なり、訴訟は皆無の国だから、アメリカ人幹部に申し立てをすることなどとても考えられないことらしい。サンヂァゴでは、お姉さんの家に同居ということらしい。

30分程そこに立ち寄って、10分そこそこお茶を飲んでいる間に、私は12ヵ所蚊にくわれてしまった。アマゾン辺りの大型の蚊でなく小さなサイズなのに、靴下やスラックスの上から見事に刺すのだ。全くアッという間の出来事で、NYに帰ってからも長い間跡が歴然としているだけでなく、その痒さに悩まされた。美味しいカモ（私）の出現、ということで、お腹を空かしていた彼等の一斉攻撃を受けたらしい。

サンヂァゴはラム酒とタバコの主産地だが、タバコ美術館を訪ねたら、独立戦争の時の英雄のサーベルやガン迄展示されて、この国の戦いの歴史を物語っていた。

サント・ドミンゴの要塞付近に1755年に建てられた寺院に立ち寄った時もそうだが、観光客と見ると、どこからともなく「案内人」が出現する。この寺院の時の「案内人」は、全く寺院の一部となりきっていて、私は僧侶と思い込んでしまった。

寺院の奥の祭壇の横の両壁には、ビッシリ各英雄の遺体が葬られていること、その1人はドミニカの国旗をデザインした人等々。祭壇前にある「永遠の火」の床下は長いトンネルとなっていて、サント・ドミンゴ市内の拠点につながっているとのこと……。

そして寺院の付近の建物や通りについても、微に入り細にわたって説明してくれるのだ。

「今貴女が歩いている通りは、共和国最古の通りです」。「このコロンブス博物館は、元コロンブスの息子が住んでいました。彼には7人の子供がいまして、彼とその妻が使用したベッドがそのまま飾られていますが、2人は別々のベッドルームを使用していました……」。

史蹟だらけの地域を出ても、この「僧侶」の説明は尽きない。寺院への献金を期待しているのか、それともこの人は僧侶が本職ではないかも知れない……。

食事にさそってみたら、「喜んで受けます」という。それでテーブルについて、彼が店の人と話している瞬間を狙って、アンソニーに、「あの人は誰であるか？私は彼にお金を払うべきではないのか？払うなら○○位あげようと思うが、どう思うか？」と矢継ぎ早やに質問し、初めて彼が即製「案内人」であることが判明した。つまり歴史的史物付近に屯していて、これはと見る人が出現すると、「案内」して幾らかチップを稼いで生活している人である、とのこと。

気が楽になった私は、何でも好きなものを好きなだけオーダーするよう彼に勧め、早速取材にかかった。この案内ビジネスを始めてどれ位になるのか、家族はあるのか、出来れば1日どれ位の稼ぎになるのか教えて欲しい……etc.

その結果、彼はこの仕事を12年していること、家族は無い（つまり結婚していない）、稼ぎは日に依るが1日○○ペソ位と知った。

ドミニカの繁華街で、時々犬の姿を見かけたが、皆痩せてアバラ骨が見えた。公園で、明らかにお産をしたばかりと分かる牝犬がいて、私を見ると尻尾を振りながら近寄って来た。臭覚的に、この人間は何かくれそうだ、と知ってのことらしい。生憎何も持っておらず、期待に応えられず心が痛んだ私は、後で食べものを都合して公園に戻ったのだが、もうその犬の姿は見当らなかった。今でもあの仔犬を抱えた牝犬はどうしているのかなと思う。

野良猫の姿は一切なかった。犬は知らないが、猫は食べるのだそうだ。

筆者紹介／岩本蘭子
ボストン大学大学院ジャーナリズム科卒
ランコインターナショナル社長

オサダの商品
〈お元気ですか〉

本山歯科医院

広島市中区上八丁堀7−9本山ビル

院長　本山栄荘
本山智得

広島城跡にほど近い官庁街の中で、ご自身のビルを持ち、その2階で開業40年目を迎えられる本山歯科医院。ご先代が呉市で歯科医院を開業されたのは更にさかのぼること32年前、と言われるから、今年で72年。歯科医家の名門である。

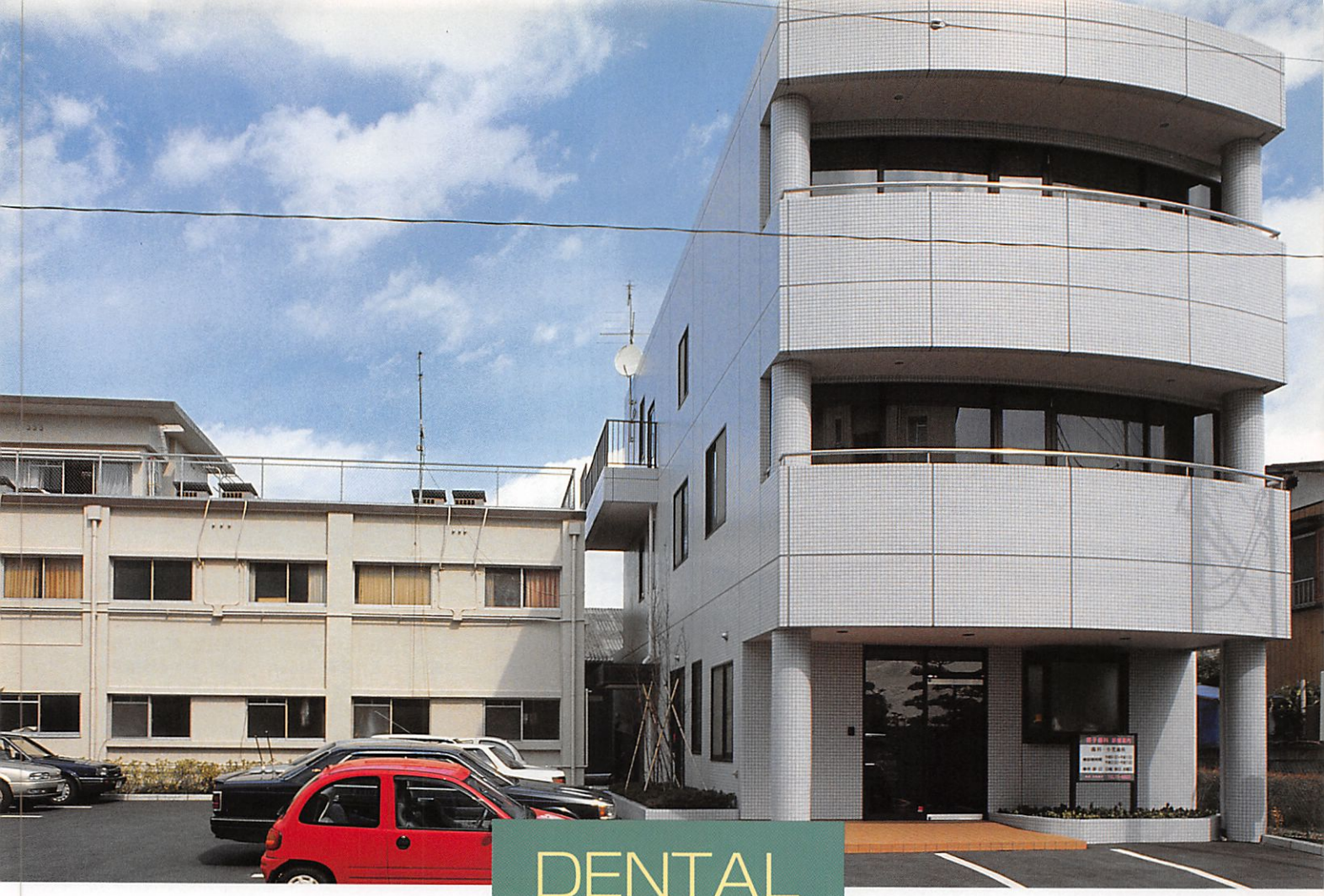
スタッフも院長の他にご子息智得氏と勤務医1名を加え総勢10名余という大所帯。あまり饒舌ではないが、キビキビと働くスタッフに囲まれた院長の笑顔が温かい。そうした人間としての深みが若い先生方、また周囲の歯科医師の方々にも信頼されておられるのであろう、県歯科医師会常務理事、政治連盟常任理事等、多忙の中にも拘らず、公務も遂行されておられるようだ。

「大正11年に呉市で開業した父が此処に移って来たのが昭和29年。私が大阪歯科大学を卒業し、父のもとに帰って共に治療を始めたのが昭和38年ですから、もう30年ですよ。最近息子が帰って来て共に診療をしておりますが、人間60才を越すとそろそろ老いを自覚し、それと同時に、自分でやって来た仕事への思いも深まりますね。可もなく不可もなく、まあ自分では良かったと思う人生ですが、生まれ変わっても、と言われますと……、考え込んでしまいますが(笑)」。「今若い方々から色々と開業相談等を受けますが、私達の時代と違って、近年は開業条件が厳しくなりました。昔はユニットも1〜2台から始めて、患者さんの来院数や希望に沿って台数や設備を拡充していけばよかったんですが、今は最初から総てキチッと揃えてから開業しなければ、患者さんも納得しない。負担も多いし、途中でやめるわけにもいかない。開業される若い先生方は大変だと思いますね」。

ご子息智得氏は2年前お父様と同じく大阪歯科大学をご卒業。現在は広島大学歯科第一保存学教室で研修を積みつつ、お父様と共に診療生活を。——院長は厳しい？の質問に「ええ、すごく厳しいですよ」と一言。もっともニコニコ笑いながらのご返事であるところをみると……？「もう、全く言うことを聞かんし、喧嘩にもならんよ(笑)」と院長が。見ていても気持ちの良い親子である。3代目を引き継がれるプレッシャーは？「余り感じませんが、今まで続けてきた歯科医院としての信頼性を失わない様。その為には新しい材料や技術をすすんで採り入れ、患者さんの希望、時代に即した医院作りをして行きたいと思っております」。——将来の夢は？「インプラント等も今勉強中ですが、チェアーを増やし、規模も内容ももう少し広げていけたらいいな、と考えています」と意欲的なご返事。

窓側に沿って並べられたブルーとアイボリーのツートンカラーのユニット4台。1台は半年前にお買上頂いた、いま人気の〈ファインGM〉。2台はスマイリーN・3202型。残る1台が10年以上前にご購入頂いて、いまだ全く問題なくご使用中の同じくスマイリーN・2720タイプ。「父の代はよく覚えておりませんが、私の代に入ってからはずっとオサダですね。理由の第一はやっぱり企業姿勢と担当者の人柄の良さですね。呼べばもちろんすぐ来てくれますし、こちらがだまっていても総てチェックしてくれます。私達と患者さんとの間もそうですが、長いおつき合いを続けていれば、お互いに相手の立場に立って、早め早めに手当てをする。大事に至らず、そうしたメリットは大きいのではないでしょうか」。——若い先生方に大先輩から「私が父のもとに戻って来た頃から、当界もやっと上向きになって来て、その後10年が頂上。今は地の底という状態ですが(笑)、今の若い方々は私達の頃とは比べものにならない位よく勉強しますね。そうした点は立派です。新しい診療法にどんどん挑戦して行く姿勢を忘れずに、それらの治療を通して患者の身になって考える本当の親切。そうした心は必ず患者さんに伝わります。広告をするより、1人の口込みの方が数倍効果があることを忘れず、日々の診療にあたって欲しいと思います」。今後の歯科医療界について「当県は対外行事は活発でして、今も日歯の8020運動の中間目標として、松島会長のリーダーのもと、55才で25本の歯を残す、5525運動を推進しておりますし、今秋には全国歯科保健大会も当県で開催される予定です。もう我々も来院者をジッと待っている時代ではありません。口腔内の大切さを患者さんに指導し、自ら患者さんに積極的に手をさしのべる。そんな時代に入ったのではないでしょうか」。

公私に亘って歯科医療の行方をゆっくり話される院長。こうした認識は礼儀正しく、明るい印象のご子息智得氏も確実に伝わっている、と思われる。名門にふさわしい診療所である。



DENTAL SPACE

容子歯科

茨城県勝田市東大島3-5-12

院長 大岡容子
（旧姓・斉藤）

明るくスッキリ、開放的で、しかも気持ちが和らぐ雰囲気づくり。それを心掛けました。

JR常磐線・水戸の次が勝田駅、駅前商店街を抜け、静かな住宅街を車で5～6分走ると、角地にお父様が運営される産婦人科・皮フ科・内科――斉藤医院の立看板と病棟が。その隣り、薄紫の真新しい3階建の建物が、ご紹介の「容子歯科」である。側面はおよそ20台は可能と思われる、医院と共同で使用される駐車場。

建物前面はゆるやかなアール状、玄関脇の花壇の中にはピンク色で医院名と電話番号の表示看板。一見して、女医さんが運営される歯科医院だな、と思わせる。

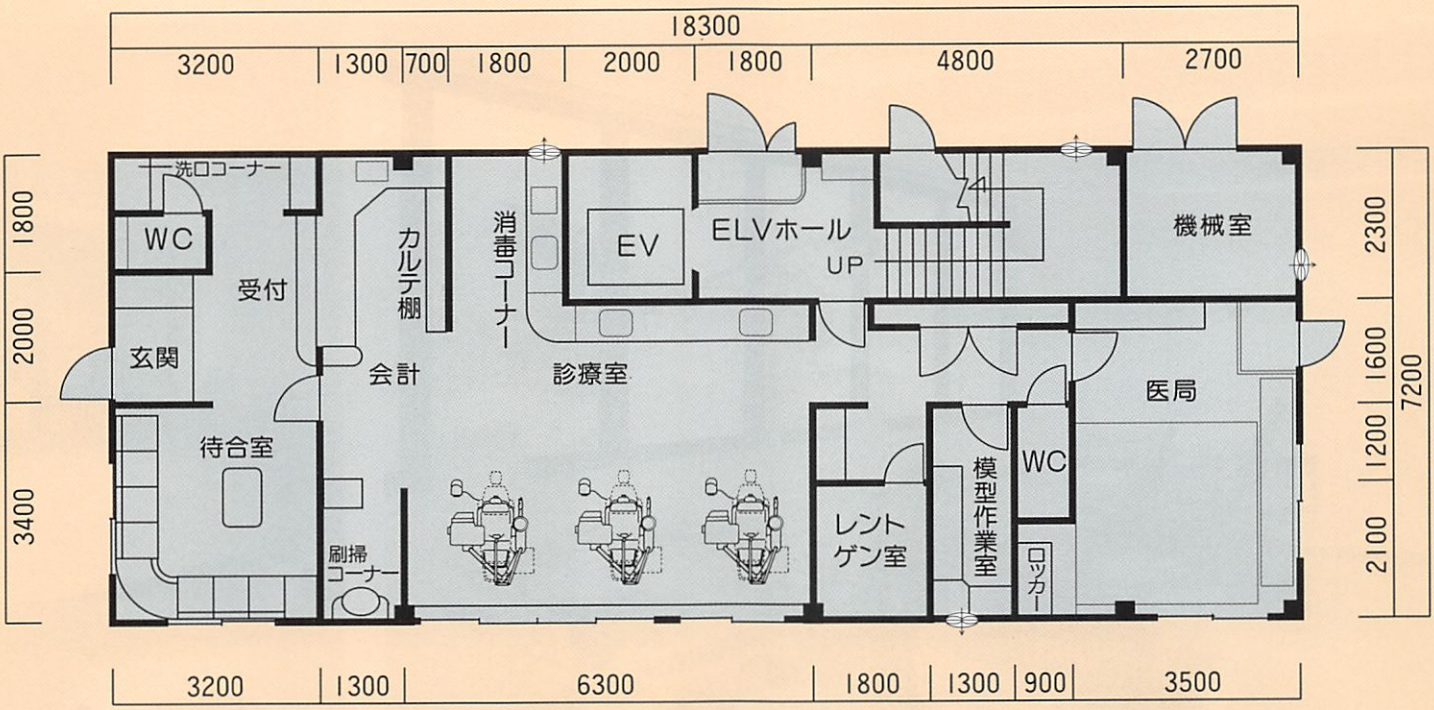
待合室は、入った中央に素通しガラスの窓口方式の受付。左側は手洗・洗口室、右側が待合室となっている。壁に沿ってL字型に並ぶ椅子はカラシ色。床は淡い白茶系。天井、壁は白。

診療室の床は待合室と同色同材。明るい日射しが入る窓に沿って濃淡グレーの〈ファインGM-L型〉3台が並んでいる。L字型にとった背面キャビネットもグレー。余裕をもって設置されており、使い易そうだ。

キャビネットとワークテーブル上に置かれたピンク色の敷き紙以外、総てグレー、黒、白のモノトーンで統一されている。院長のお話によると、壁にきれいな絵でもかけ、もう少し和らかな雰囲気を出したいけれど、まだ開業まもないので、丁度良い絵が見つからなくて、ということであるが、年月がたつと、どうしても置物、器具等で色が氾濫してしまう。初めは極力色を押さえてスタートされた方が、後々も飽きのこない診療室になるようだ。とは言うものの、院内は女性ばかりの医院らしく、どことなく清潔で和らか、やさしい雰囲気が漂う。

院長は昭和56年、神奈川歯科大学をご卒業。卒後は口腔診断学教室で2年、更に同教室で研修生として2年余り勉強された後、埼玉県浦和市で勤務医を。結婚後は友人の紹介で東京・広尾で開業にそなえ更に3年間勤務医生活を経験。ところが、広尾時代は場所柄か、今後地域の中でやらねばならないであろう小児歯科の患者さんが少なかったことから、又母校にもどり、檜垣教授のもとで、小児治療の再確認をされた、という。勉強も経営も……。キャリア十分。申し分のないスタートである。

Q：お父様が経営される病院の一画。患者さんにとっても好都合で、恵まれておりますね。



■設計・施工：株式会社 松栄設計 ■開業：平成５年４月
■スペース：約132m²（約40坪） ■ユニット：〈ファインGM・L型〉3台
■診療時間：9:30～13:00、15:00～19:00 ■休日：日曜、祝日、水曜日
■スタッフ構成：ドクター１名、衛生士１名、助手１名
■患者数：１日約25名

院長　大岡容子先生

院長：ええ、この場所はもと病院のガレージと倉庫があったところで、それを壊し建てました。患者さんも、ここが混んでいますと、ちょっと隣りに行って、また来ますから、と言われる方もいて……。良い場所に建てることが出来、感謝しております。

Q：お父様の跡継ぎは？歯科を志された動機は？

院長：私は女ばかり、三姉妹の長女なんですが、父もこれからは女性でも男と同等に何か身に付けた方が良いとの考えで……。そうしますと必然的に医療関係は？ということになり……。私が歯科大に進んだことから、妹達も歯科大へと進みました。次女は栃木県で夫婦で開業。三女は品川で小児歯科の勤務医をしております。跡継ぎは、私の夫が内科医で、現在勤務医ですが、いずれはと思っております。

Q：勤務医時代と比べてどうですか？

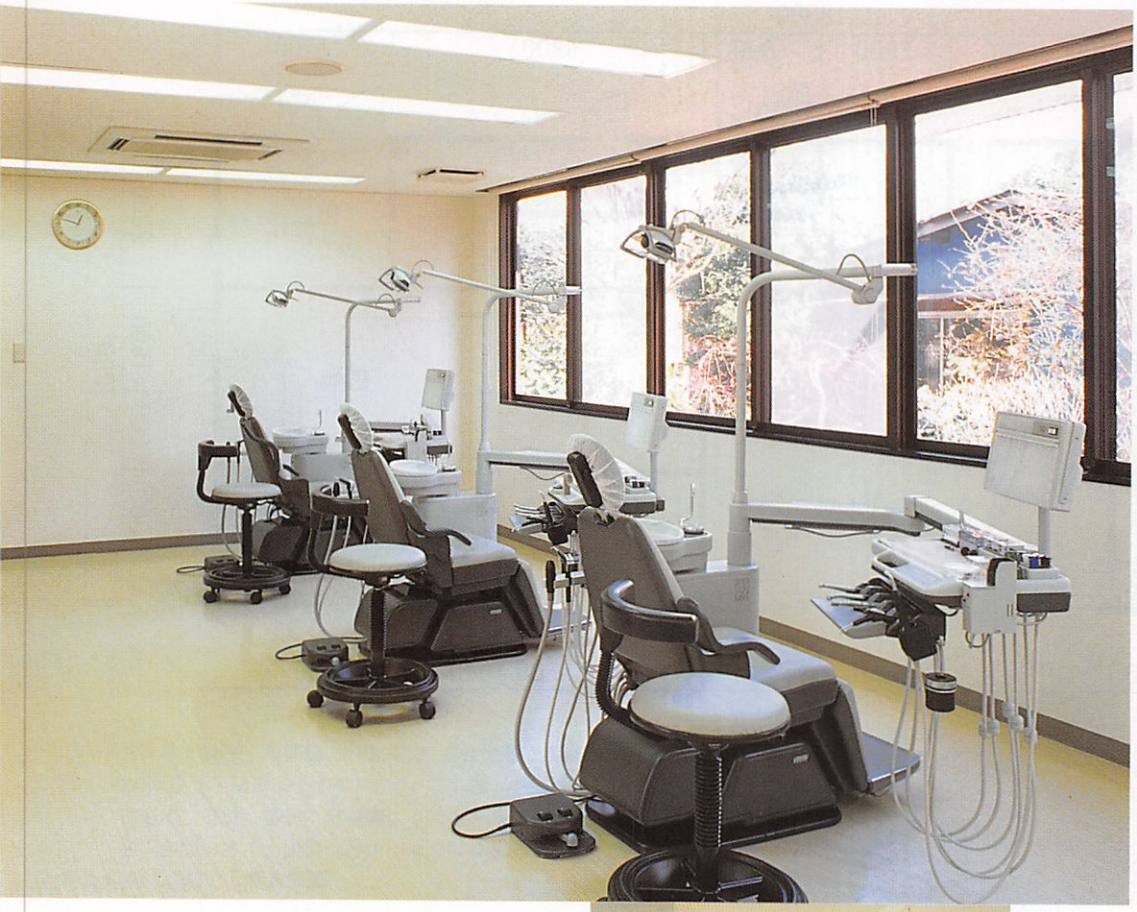
院長：通勤など、楽になった面もありますが、最初は大変でした。県庁や保健所、消防署等への手続き。お互いに慣れないことから来るスタッフとの治療の流れ。それと私って意外にそそっかしいから（とてもそんなようには見えないが……）、器具など患者さんが来てから、あわてて箱から出したりして（笑）……。半年以上かけて、やっと落着いて参りました（笑）。

Q：診療室を作られるにあたってご留意された点は？

院長：全体の感じは、歯科は痛いっていうイメージがあることから、明るくスッキリ開放的で、しかも細部は気持ちが和らぐ雰囲気づくりですね。各部に植木も置きたかったのですが、子供さんが走り回りますので、万一転んだ場合を考えましてやめることにしました。（洗口室の傍ら、電話台の横に“この上にのぼらないで下さい”と貼り紙が）ええ、この前あの台が落ちてしまったんです。子供さんは大人が考えつかないようなことを平気でやりますから、とにかく危険と思われるものはなるべく置かないようにしております。

Q：患者数と患者層は？

院長：患者層は子供さんからお年寄りまで。それと、どういう訳かわかりませんが、当院は子供でも幼稚園以下の子と、女性の患者さんが圧倒的に多いんです。お母様方は、男性はちょっと怖いが、女の先生なら大丈夫、と思われるのかしら（笑）。その方達が又紹介してくれて、というように、現在まで来ております。患



者数は1日およそ25名位で、私にとっては丁度良い人数。恵まれたスタートだと思っております。

Q：都内(広尾)で勤務されていた時と比べ、歯についての認識度のギャップは感じられますか？

院長：広尾といいましても30年も続けられている歯科医院でしたから、患者さんは下町の商店主の方々が多かったので、かえって庶民的。その点この辺りは会社関係などで転勤されて来た方も多く……。地元の方々とそうした方達。個人によって一概には言えませんが、認識の差は大きいようですね。

Q：ご自身の勉強は？

院長：現在も母校の小児歯科に席を置き、研修生として学んでおります。なるべく中にこもらないで、友人と患者さんについて話したり、又色々な情報を交換しあいながら勉強を心掛けるようにしております。良い友人を持つことが出来、感謝しております。

Q：オサダのユニットを選ばれたのは？

院長：勤務医が長かったので他社の製品を使う機会がありましたが、オサダが一番使いやすかったので……。

Q：フル装備の〈ファインGMーL型〉をお選び頂いたのは？

院長：大学時代の親友の従兄弟が勤務しているところがオサダを使っていまして、その医院で患者さんにアンケートをとりましたら、椅子感覚で座れるL型が圧倒的に良いとの結果から。特に他の患者さんを治療していて、ちょっと待ってもらう時や、身体の不自由な方、お年寄りなど座りやすいらしいですね。装備も光重合やエナック内蔵のフル装備にしましたが、これ等は単品ですと長い間の使用時に持ち運び等で、ついうっかりブツけたり、落としたりで先端を壊すことを見てきましたので。又、根管治療を察し次の患者さんのために、先端部を変えたりして、治療の準備を先に先にやることも出来ます。多少高くつきますが、何回も買うものではありませんし、毎日使うものですから、ユニットだけは総合的にみて気に入ったものを、と最初から考えていました。今のところ全く問題はありませんね。

Q：将来は？

院長：どんな層のどんな治療も応えられる歯科医院でありたいと。口で言うのはやさしいんですが、とにかくそれを目指し勉強して行きたいと思っております。それと患者さんが何でも相談出来る雰囲気づくりですね。難しいですが、一歩一歩努力して行きたいと思っております。

Q：最後にお友達の皆さんに……。

院長：遅ればせながら、やっと開業しました（笑）。皆さんも身体に気をつけて頑張って下さいね。

＜設計・施工の立場から＞

容子歯科新築の設計に当たって、まず現在父親が開業している斉藤病院の一角を利用するため、どう全体をセッティングすれば全体的にマッチし、さらに相乗効果が得られるか。検討の結果、建物は斉藤病院と同じ3階建にする事、そして駐車スペースを中心に設け、双方で利用する事で全体のレイアウトが決定しました。1階に診療部門。2階に医師である主人のための書斎、書庫、納戸等のプライベートルーム。3階が居住スペースという全体計画でまとまりました。又、容子先生の動線も1階と3階が一番多いため、ちょっとぜいたくをしエレベーターの設置決定をいたしました。特に診療部門のプランに当たっては、スタッフが院長をはじめ全員女性であること、そして打ち合わせのたびに出てくる、患者さんに対しての心くばり、これをどう建物に活かしていくか、これが最大のポイントであったと思います。建物全体に丸みを取り入れ、特に南面（正面）に曲線を設け大きなR付のガラスを取り付けることによって、全体をソフトな感じにまとめ、又採光、通風を充分に確保することにより住環境はまとまりました。1階の診療部分においても、入口の両サイドに花ダンを設け、まず待合室に入る前にリラックスしていただき、待合室もR付のイス、ロールカーテン、出窓付とサロンをイメージした待合室を造り、あたたかく優しさにみちた室内空間が出来たと思います。診察室内部も光を充分取り入れ、明るくソフトな中にもキャビネットのスペースを機能的に配置。診療できるようにしました。容子院長の患者さんに対する思いやりが細部にわたり、行き届いた建物が完成いたしました。今後の御活躍を御祈念いたします。

株式会社 松栄設計　代表取締役　松本光栄

歯科医院の新築・改築・増築から医院経営まで、すべてわかる！

開業ガイド

〈主な項目〉

- 歯科医院のセクション別実例
- 歯科医院のレイアウトチェックリストと基本事項
- 歯科医院のレイアウト実例
- これから開業される先生方へ——オサダからアドバイス他

〈別冊付録〉設備機械、器具、材料リスト

定価10,300円
（本体10,000円）

経営マニュアル

〈主な項目〉

- 開業準備の留意点
- 開業準備計画書／開業収支・資金計画書
- 歯科医院の節税戦略（青色申告）特別経費・専従者給与・損益通算・特別償却・MS法人・医療法人
- 財テク・税テク　他

定価6,180円
（本体6,000円）

※御希望の方は下記迄、御連絡下さい。

長田電機工業㈱／お客様センター
〒141 東京都品川区西五反田5-17-5
☎03(3492)7651㈹

はながたみ

能・紅葉狩

能と絵と歯科医師と。プロとして三筋の道を40年余り歩まれる松本先生を訪ねて。

松本歯科医院

山口県防府市大字仁井令1686

院長 松本英二

防府市郊外の静かな住宅地内に建つ松本歯科医院の院長室。壁には百号の油絵で画かれた能画が2点かかっている。取材前、“能画を画く先生”と聞いた時、当方の頭には、水墨、色をつけても水彩画という、日本画の世界をイメージしていたが、全く違う。それも通常我々が目にする、松と竹を配した背景に檜造りの床という能舞台とはまるで異なった鮮やかな色どり、背景で、実際の能舞台を見ても決してこのシーンにはお目にかかれないであろう能画が画かれている。「ええ、私は自分で能をやりますから、その仕種、着物、筋書まで総て知っております。ですから、それ等を総合的に一つの画面に取り入れ、一枚の絵の中に物語を凝縮させ画いております」。「絵を画くことは小さな頃から好きで、戦前、旧制防府中学を卒業する頃、歯科医であった父に、美術学校に進学したい、と言いましたら、即座に反対され。理由はお前の祖父も、造り酒屋の家業を弟に譲り、日本画家になったが生涯貧乏暮らしだった。生きてる間は貧乏して、死んだ後、人から評価されたってダメだ、と言う訳です。丁度その頃戦争が烈しくなり、文化系統の学生は総て学徒出陣。歯科系等の理科系のみが徴兵延期ということになりましたので、父の跡を継ぐべく大阪歯科大学へと入学しました」。能との出会いは?「昭和25年頃、縁あって観世流家元職分、重要無形文化財保持者の故・津田康由師に師事したことから、その伝統芸能の世界に魅せられ、昭和53年には観世流能楽師範となりました。当時は、友人達から、あんな年寄りがやるものを…、とよく言われましたよ(笑)。今も毎月故・津田師のご子息が来られて教えてもっらておりますが、能の勉強はもちろんですが、人間としての修業に非常に役立っております。我々は若くして先生と言われる立場に立ち、人から怒られるということはあまりありません。しかしこうした、しきたりが厳しい世界、特に家元の職分ともなりますと3才の頃から厳しい修業を積み、現在に至っている訳ですから、芸にも格段の差があります。

能・安宅

追慕井筒

年1～2回、東京の観世能楽堂で大会が開かれ、出演しているのですが、裏方に入れば私達は小間使い同然。女房が見て、可哀想になる、と言われるんです。しかしそれがプロの世界ですし、そうした厳しさは当然だと思っております」。人がそれを生業(なりわい)として生きることへの厳しさ、心の在り方として…。素晴らしいお話である。

「昔は私も風景や花など暇をみつけては画いていたんですが、ある時友人が、能と絵、その造詣を活かして、人の画かない能の絵を画いたら、と言われたんです。その第一作を東京上野の都立美術館で毎年秋に開かれる展覧会に出品しましたら初入選、一線美術準会員に一挙に推挙されました。その後、連続入選を果たし、昭和62年に一線美術の会員となりました」。毎年発行される美術年鑑・作家名鑑編にも、日本を代表する作家の1人として名を連ねておられる。――歯科医師として公私共多忙の上、能の弟子の教授を週4回程とお聞きしますが、絵はいつ画かれるんですか？「アハハ…。皆に聞かれるんですよ。私はきまって“寝床で画く”と言っているんですよ。とにかく画きだしたら面白くて、食べなくても、夜中でも平気なんです。それに忙しい方が絵筆も進むんですよ。私にとって絵が良いストレス解消法にもなっているんです。65才のときに個展を開き、65点展示しましたら全部売れてしまったんです。その買われた方達の為にも、私の絵の価値観を上げ、買って良かった、と言われるよう今後も良い絵を画き続けると共に、死ぬまでに世界の名画と言われる名画を一点遺したいと燃えているんですよ(笑)」。一筋の道を極めるのも至難であると言われるが三筋の道を…。絵は幼少時天才と言われるほどの素質。能は40年以上の努力の積み重ね。残る歯科医師は？「もちろん、それが私の天職と心得ております(笑)。医師、それも歯科医師という比較的自由がきく職業でなければ、能も絵も出来なかったと思っております。絵の具も色彩が良いとの思いからフランス製を使っておりますが、びっくりする程高いんですが、それも生活が安定しているからこそ買えるんです。時に人から“何が本業なんですか”と聞かれますが、本職はあくまで歯科医師。そう言った意味でも父から受けた反対・助言には今でも感謝しております」。

アシスタント紹介

医療法人社団 浄生会

下井草歯科

東京都杉並区下井草2-44-5
川端ビル3階

理事長 小郷憲太郎

金沢　千景さん
吉田　真理さん
吉田　　薫さん
金野　　恵さん
加藤　礼子さん
中原　朗子さん

練馬歯科

東京都練馬区練馬1-1-9
STビル3階

理 事 小郷恵子

嶋　　智子さん
藤野三千子さん
水上　智子さん
佐田久美子さん

西武新宿線・下井草駅を降り、駅前を東西に走る賑やかな商店街を40～50m行ったテナントビル3階にご紹介の下井草歯科はある。

“いずれがアヤメかカキツバタ”。ずらりと並んだ9人のピチピチギャルの皆さん。今回ズーム・アップにご紹介とのことで、分院である練馬歯科からもお昼休みを利用してお出掛け下さり、写真におさまって下さったが、お話しは誌面の都合上、下井草歯科の6人に語って頂いた。

尚、当院は院長(理事長)と女医である奥様(理事――共に日本歯科大学卒業)を中心に、スタッフはアルバイトを含めると総勢20人余りという大所帯。大学のバスケット部に所属した卒業生が開業前に毎年ここに入局されトレーニングを積むといわれるだけあって、院内は笑い声が絶えず活気がある。歯を病む患者さんにとって、さぞホッとする雰囲気であろう。患者数も多い。

最初にご紹介するのは埼玉歯科衛生士専門学校を卒業され、当院で9年目を迎えるチーフ格の金沢さん。昨年夏当院の近くに移るまでは、実家の上尾から電車を乗り継いで片道約1時間半かけて通勤されていたと言われるから、努力もさることながら、当院はそれだけ魅力ある職場であることは確かであろう。――もっと近くに職場は沢山あると思いますが何故？「うーん。やっぱり院長先生を初め、スタッフの皆さんの人柄ですね。それと私は外科が好きで、当院はインプラントもやっておりますので、勉強も出来ますし……」。笑顔の可愛い、やさしそうな衛生士さんであるが、意志はかなり強いと見た。――衛生士としてのやりがいは？「やはり歯に病む人の手助けをすることによって、相手の喜びがそのままこちらに伝わって来ますから……。それがこの職業の魅力です」。――チーフ格として心掛けている点は？「うーん、困っちゃうな(笑)。やはり相手の立場に立って考えてあげること。全員と平等に接することかしら……」。これはそのまま患者さんにも通じる言葉。やはりベテランである。

吉田さんも助手として当院に勤め既に5年目。――当院の魅力は？「当院は担当医制になっておりますから、ドクターと共に1人の患者さんを責任をもって最後まで面倒を見ることが出来ます。又、週3回、3時から6時迄小児歯科を主にやられる恵子先生(奥様)が子供さんの治療をされるのですが、私も子供が大好き。すぐ仲良くなっちゃうんです。そうしたこともたのしいですね。あっという間に5年間過ぎてしまいました」と当院の魅力を。

次にご紹介の受付担当の吉田さんは、前出の真理さんの妹さん。お姉様の紹介で会計事務所勤めから当院に転職。「会計は慣れているからと移ったんですが、初めは驚きました。次々とかかる電話。患者さんや業者の方との応待。コンピューターの操作、投薬の処理等、会計事務所は1人の世界だったんですが、その忙しさは比べものになりません。でも最近やっと慣れて来ました」。――結婚後も勤められそうですか？「うーん、難しい。相手次第ですが、仕事はかなりハードですから……。やっぱり無理かな(笑)！」。

金野さんはアポロ歯科衛生士専門学校を卒業され、正式入局2年、アルバイト時代を含めると3年目を迎える衛生士さん。この職業観について「まだ2年ですが、自分の勉強

したことの知識を活かしてやって行ける職業ですから、この道を選んで良かったと思っています。ただ欲を言えば、もっと専門的に……。私は口腔外科が好きなので、その方面の専門衛生士としてやっていけたらと思っていますが、それにはまだまだ不充分。田舎(岩手県)から出て来ましたので、自身の生活基盤をしっかり作らねばなりませんから、そのためにはまず勉強を。そして少しでも上昇して行きたいと思っております」としっかりしたご返事。将来が楽しみな衛生士さんである。

加藤さんは助手として2年目。証券会社から転職された、ハキハキ言語明瞭なお嬢さんだ。——何故転職を？「ここには初め患者で来ていて、その後アルバイトで勤めたことがあるんです。でもその後短大を出て勤めたんですが、やっぱりこの仕事の方が面白そうだと移りました。移って良かったと思っています」。——どんなところが？「仕事もやりがいがありますが、皆同じ位の年ですから、仕事以外の遊びも気が合って、毎日がたのしいです。院長先生も仕事は厳しいんですが、離れたらやさしい。やっぱりそうした職場全体の雰囲気が良い、ということがここの魅力じゃあないかしら……」。

中原さんは日歯大附属専門学校歯科衛生士科を卒業され、当院入局3年目を迎える。「アルバイト時代当院に来ていますからもう4～5年近くおります。ドクターとも畏まらずに、何でも言い合えることがこの医院の魅力ですね。将来は小児歯科方面に進みたいな、と思っていますから、今は恵子先生に附かせてもらっております」。——小児歯科治療の留意点は？「初めは不安で泣き叫んでいても、話をして、器具その他を練習させて、不安感を取り去ると、2～3回後にはほとんど問題なく治療することが出来ます。小さな時から歯医者嫌いにならないようにという、先生の方針が好きですし、私も心掛けています」と、しっかりした返事が返って来た。

<理事長＆理事から一言>

小郷憲太郎

「当院は役割り分担制で運営しております。そのため患者さんに対しての責任がドクターはむろん女性スタッフにもかかって来ます。そうした事が逆に、私がいなければという、やりがいに通じているように思われます。他院に比べてもキツイ勤務状態だと思いますが、長い目で人を育てていく、という気持ちでやっております」と理事長。「運営面は理事長と2人で決めておりますが、細かいことや目についたことは女の方が自然でいいみたいですね。全員が縁故関係で入っておりますから、将来も含め、良い関係を大切にして行きたいと思っております」と理事である恵子先生が。スタッフ全員がおっしゃるよう、若さ溢れる明るい職場環境のようだ。

小郷恵子

アシスタントのための診療室の手引き

定価6,180円
(本体6,000円)

アシスタントとしての心構えから話し方、患者さんへの対応の仕方、会計、消毒、手渡し技術等々をわかりやすく解説。また、簡単な機器・機械のメンテナンスも図付で説明。アシスタントのノウハウを詰め込んだ一冊です。

※ご希望の方は下記迄、御連絡下さい。
長田電機工業㈱／お客様センター
〒141東京都品川区西五反田5-17-5
☎03(3492)7651㈹

画面が4分割出来ますから、治療状況をすぐその場で比較出来ます。多方面に利用しておりますが、患者さんの評判はいいですね。

田中歯科クリニック

東京都世田谷区1-15-11

院長 田中　誠（昭和大学歯学部卒・33才）　田中博子（昭和大学歯学部卒・30才）

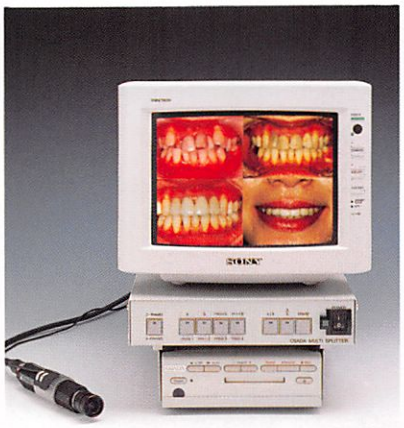
二軒茶屋⇄下高井戸間を走る東急世田谷線。チン！と鳴って発車する昔なつかしい電車を世田谷駅で降り、徒歩で4～5分。田中歯科クリニックが建つ通りは商店街が軒を連ねているが、一歩入れば東京を代表する静かな高級住宅が建ち並ぶ。

そのテナントビル1F。建物正面は赤枠を使ったサンデッキ風で、一見イタリアンレストランかピザハウスか、と思わせる程の明るい感じのアプローチ。内部のインテリアも赤、黄緑、ブルー、オレンジ、白、壁にはメルヘン調のイラストと、若者好みの色彩を使って演出。傍らの壁のボード上には来院された子供達のポートレートがギッシリ貼られている。衛生士さんが撮られるとのことであるが、患者さんとスタッフ一同のたのしいコミュニケーションが伝わって来るようだ。

「このインテリアは、借りる時すでに前面の赤枠のガラス貼りが出来ておりましたので、それならそれを利用、思い切って近辺にない若者好みに総て仕上げようと……。ですから当院の患者さんの年齢層は若いですね」と院長。「私が女医であることからか、子供さんが来やすいらしく多いですね。スタッフ全員が若いから、その明るさを患者さんにも……。たのしくやって行けたらいいな、と考えています」と奥様である博子先生が。「ずっとこの土地で開業していくつもりですから、地元の方達と仲良く、そして信頼で結ばれる歯科医院でありたいと願っています」とお2人揃って。

◇　◇

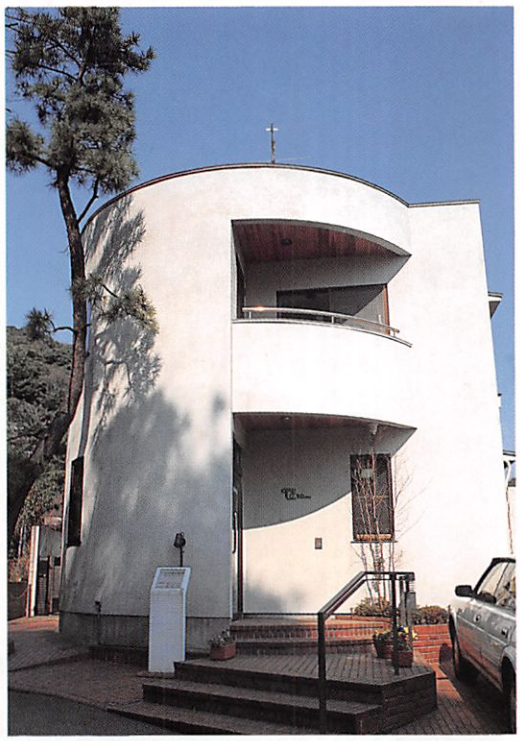
3台並んだファインユニットのアーム上にはオサダのシンプルビジョンとマルチスプリッタ。「マルチスプリッタは2分割・4分割出来ますから、その場で治療前後はむろん、ブラッシングの状況まで対比して見ることが出来ます。又、子供達には初め顔を映し、興味を持ったら口腔内へと、ゆっくり説明しながら導いて行きます。多方面に利用しておりますが、患者さんの評判はいいですね。



※画面の映像はハメコミです。

オサダ
シンプルビジョン
マルチスプリッタ
東用第122号

※資料ご希望の方は、商品名、掲載誌名を明記の上、本社お客様センター係宛にハガキでご請求下さい。



院内感染防止を重点的に採り入れてあることからこの機種を選びました。操作も簡単で、すぐ慣れ使いやすいですよ。

田中歯科医院
鎌倉市稲村が崎4-6-12
院長　田中道子
（新潟大学歯学部卒・47才）

七里ヶ浜の……剣とうぜし古戦場♪と新田義貞が海に剣を投げ必勝を祈願したと言われる稲村が崎。田中歯科医院はその駅から2～3分。静かな高級住宅地の中、U字型の真っ白な建物で、歯の形を表したのかな、と思わせる建物。建築家であられるご主人の力作のようである。

院長は昭和47年、大学を卒業後、開業医であられたお父様と共に長野で診療生活を送られていたが、ご主人の仕事とお父様が亡くなられたことから当地に移転。昭和62年新たにご自身の診療室を作られた。

「この辺りは昔から住んでおられる方が多く、従って患者さんもお年寄りや奥様が圧倒的なんです」。

――では義歯の患者さんが多い？「ええ、以前はあまり得意ではなかったんですが、仙台でご活躍中の阿部晴彦先生にご指導を受け、開眼させられました(笑)。以来ですね。この仕事が面白くなりましたのは」。窓側に2台並んだユニットの中央キャビネット上には2台のテレビが。「1人1人の患者さんの術前・術後の写真をビデオに撮って、患者さんにお見せしたり、自分でも色々と勉強をするデータにしております。ゆっくり一歩一歩ですが、患者さんサイドに立った、喜んでいただける歯科診療を今後も続けて行きたいと願っております」。

◇　◇

院内感染防止を重点的に採り入れてあることから、この〈ファインGMD〉を選びました。又、機能も総て内蔵のフル装備にしましたが、コード等床に余分なものがありませんので室内もスッキリ。良い機種を選んだと思っております。

OSADA
Fine GMD S233LL
製造承認番号03B第0326号
※資料ご希望の方は、商品名、掲載誌名を明記の上、本社お客様センター係宛にハガキでご請求下さい。